



千葉大学医学部同窓会報 第179号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

編集発行者 千葉大学医学部 るのほな同窓会報編集部 〒260-8670 千葉市中央区玄鼻1-8-1 千葉大学医学部内 るのほな同窓会 電話 (043) 202-3750 FAX (043) 202-3753 e-mail : info@inohana.jp HP : http://www.inohana.jp/



平成30年度 るのほな同窓会総会開催



平成30年度るのほな同窓会総会が平成30年6月9日(土)午後3時30分より、銀座アスタ御茶ノ水賓館において開催された。

吉原俊雄副会長の司会により開会となり、会議に先立ち、物故者92名の冥福を祈り黙祷を捧げた。済陽高徳会長の挨拶に続いて、白澤浩理事より会務報告があった。各議事については吉原副会長、白澤理事、幡

会長挨拶

るのほな同窓会長

済陽高穂 (昭45)



みなさんこんにちは。今日は平成30年度のるのほな同窓会総会に多数ご参集いただきまして有難うございます。今回は東京るのほな会の担当ということでご苦労様です。今年度は3名の方が名誉会員に推戴されました。議事として昨年度の事業・決算報告、今年度の計画案並びに予算が提案されています。そして役員選出についてもお話しがある予定

野雅彦理事から説明があり審議承認された。(議事要旨は27面に掲載) 総会に引き続き平成30年度るのほな同窓会賞の表彰式と、三澤園子氏の若手スピーチ、安西尚彦氏、堺常雄氏の特別講演が行われた。(講演内容等は2、3面に掲載) 懇親会では新名誉会員、地区るのほな会長等からご挨拶を頂き歓談の時を過ごした。

で、審議のほどよろしくお願ひいたします。4年前に皆さんの総意で新同窓会館が建設され、同窓会員を中心に大いに活用されており同慶の至りです。これに続いて、医学部新棟が4年後を目途に完成予定です。そのため旧医学部での歴史の遺産や業績に関連する物件などの保管・提示スぺー

祝叙勲

平成30年 春の叙勲 瑞宝中綬章 北澤 克明(昭36) 大塚 嘉則(昭39) 小山 哲夫(昭43)

瑞宝小綬章 成田 光陽(昭28) 瑞宝双光章 木下 昌(昭38)

第23回(2018年度) るのほな同窓会賞 受賞者決定 寺澤 捷年 (千葉大学名誉教授、昭45) 「和漢診療学・医療融合新領域の創成および千葉大学医学部発展基盤への貢献」 功労賞 寺澤 捷年 (千葉大学名誉教授、昭45) 「和漢診療学・医療融合新領域の創成および千葉大学医学部発展基盤への貢献」

るのほな同窓会 卒後50周年基金 への寄附 昭和43年卒クラス会 三百五十万円 ありがとうございます。

紙面紹介

Table with 2 columns: Article Title and Page Number. Includes '総会開催', '特別講演', '就任挨拶', '人事異動', '叙勲感想', '各地るのほな会', 'クラス会', '研修プログラム', '研修医だより', '会員から', '追悼文', '雑文雑談', '学内情報', '著書紹介', '地区るのほな会報', '議事要旨', 'オンライン会報', '編集後記'.

るのほな同窓会総会
若手スピーチ

成長戦略として考える
女性医師の育成

千葉大学医学部附属病院 脳神経内科

准教授 三澤園子(平11)



現在、女性が国家試験合格者数に占める割合は3割を超えます。しかし、まだまだ多くの女性医師が自らの理想とするような成長の仕方、働き方が必ずしもで

るのほな同窓会賞
功労賞受賞



寺澤捷年先生(昭45)



す。一方で、女性医師の育成・活用のための新しい制度作りは必ずしも容易ではありません。しかし、女性医師を育てる側、活かす側にある医師の意識を少し変革するだけで実現できることも、実は多く存在します。一般的に、女性は男性と比較し、自己評価が低く、積極的に自らをアピールできにくいと言う特性があります。一方で、同じような仕事をしても、女性は男性より評価されにくい傾向があることが、心理学的な研究により示されています。その結果、様々なチャンスは女性より男性に多くもたらされます。成人の能力開発の7割は経験に基づくとされます。同等の能力があっても、機会に恵まれ経験を積んだ人間が成長します。女性は意識して挑戦する勇気を持つこと、機会を与える側にいる人間は、無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)に囚われずに、正当な評価を心掛け、女性に積極的にチャンスを与えることが、若手女性の成長につながります。また、育児中は「楽な」仕事が良いのではないかと言う配慮も、女性の効果的な活かし方に、必ずしもつ

ながらないことがあります。「楽な」仕事は、「やりがいのない」仕事に、時になりえます。育児と仕事の両立が過酷であることは事実です。そして、やりがいがあるからこそ、責任がある仕事であるからこそ、大変な両立であっても、職業人としての矜持を持って全うできるという側面があります。育児中の女性医師が目指す本心はどこか、活かす側からもコミュニケーションを積極的に取り、やりがいのある仕事を任せることも、いきいきと働ける人材の増加につながります。千葉大学病院を中心とした女性医師の会、「立葵の会」を設立して、5年目を迎えました。これまでの活動の中で接した後輩の皆さんが、「大学院を無事に卒業できました」「専門医が取れました」「留学が決まりました」など、うれしい報告を時々してくれるようになりました。一隅を照らすと言う最澄の言葉があります。私自身ができることはとても限られています。一人でも多くの後輩の女性医師の皆さんが自分らしく輝くことに貢献できるように、これからは私なりに精一杯取り組んで参りたいと思います。

特別講演1
腎臓トランスポーターと
高尿酸血症

千葉大学大学院医学研究院 薬理学

教授 安西尚彦(平2)



尿酸(Uric acid)は分子量168、pKa値5.75の難溶性物質で、体内では有機酸として存在する。殆どのほ乳類では尿酸はプリン体の中間代謝産物であるが、ヒトおよび高等霊長類(チンパンジー・ゴリラ・オランウータンなど)では、肝臓の尿酸酸化酵素(ウリカゼ)を変異により欠失しているため、水溶性のアラントインに代謝されることなく、尿酸がプリン体の最終代謝産物となる。食事性(20%)及び内因性(80%)のプリン体を前駆体として主に肝臓にあるキサンチンオキシダーゼ等により合成される尿酸(1日0.7g)は、その2/3が腎臓より、残りの1/3が腸管より排泄される。肝臓から体循環に入り、腎臓に送られた尿酸は、尿中には糸球体濾過量の約1割しか排泄されない。すなわち9割が近位尿管で再吸収されている。尿酸が体内に蓄積することで生じる高尿酸血症は、痛風関節炎を引き起こすだけでなく、尿路結石や腎障害(痛風腎)さらには高血圧や心血管疾患、メタボリックシンドロームを発症することが知られており、尿酸の悪玉としての側面には疑いが無い。しかし腎臓での尿酸再吸収機構の存在もありヒトは他の哺乳類に比し血中尿酸値は高値を示すが、明らかに有害と考えられる尿酸の蓄積は生体にとって不利であるにもかかわらず、ヒトの体がその蓄積に向かうことは尿酸が善玉であるという主張に幾分かの根拠を与えるかもしれない。尿酸は血管内ではヒトでは合成が出来なくなったビタミンCの代わりに抗酸化作用を示すHAGEのスカベンジャーであることが示唆されており、尿酸の二面性には関心が尽きない。この尿酸の血中濃度は主に腎臓における排泄機構が関与しており、近位尿管上皮細胞の管腔側膜(URATI)及び基底側膜(URATI)に存在する尿酸トランスポーターが重要な役割を担っている。腎臓による血尿酸値制御機序は日本人に多く認められる家族性腎性低尿酸血症患者の遺伝子解析の結果見出された機能喪失型変異(Loss-of-function mutation)の存在が同定の証拠となった。また2007年から始まった痛風・高尿酸血症患者を対象とした全ゲノム関連解析(GWAS)の結果、最初に見出された(関連性の高い)遺伝子10個のうちの8個がトランスポーター及びその結合タンパク質であったことは、トランスポーター(及び関連遺伝子)が高尿酸血症発症に重要な役割を果たしていることを示唆した。



特別講演2

日本の医療はどうへ向かうのか
—千葉大学医学部附属病院はどうする—

日本病院共済会 代表取締役

塚 常雄 (昭45)



簡単な自己紹介

千葉大学医学部には1964年から1970年まで在学し、今から思えば古き良き時代の中で大学生生活を謳歌した。前半は部活(硬式テニス)に明け暮れ、後半は医学部紛争の流れの中で、あまりまともな勉強はしなかった。ただその中で植村研一先生に巡り合い、脳神経外科を学びたいと考へ、米国での研修を目指す決断ができた。大学卒業後、キャンプ座間米国陸軍病院

での1年間のインターンを経て米国で脳神経外科・関連領域の研修を8年間経験することとなった。1979年に日本に戻り、浜松医科大学の教授になっておられた植村先生のご生活があまり肌に合わないこともあり、教授の計らいで1981年には聖隷三方原病院で脳神経外科の立上げに係わり、1992年には聖隷浜松病院に移り、都合36年間聖隷で臨床に携わった。2010年からは縁があり日本病院会での仕事に移り、図らずも日本の医療全般の仕事に係わることとなったが、米国での研修と浜松での経験が私の考

平成30年7月西日本豪雨による、犠牲者の方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災された皆様からのお見舞い申し上げます。

え方に大きな影響を与えた。医療を取り巻く環境の変化

20世紀の日本は高度成長期を経験し1961年には国民皆保険を達成することにより、国民の健康水準を大幅に改善して世界一の長寿社会を実現した。しかし、20世紀後半から日本は高齢社会、超高齢社会へ突入し、停滞する財政状況と相まって医療を取り巻く環境は大きく変化していった。日本の医療が向かう今後の道筋は決められた

このような状況を踏まえ社会保障制度を抜本的に改革しなければならぬという機運が高まり、2013年8月に社会法制度改革国民会議の報告書がまとめられ、今後の日本の医療の進む道筋が決められた。当初は団塊の世代が後期高齢者の仲間入りをする2025年をターゲットとしていたが、今となっては高齢者数がピークを迎える2040年をターゲットと変えていく必要が出てきた。

求められる医療提供体制改革病院にはこれまでの「競争」ではなく「協調」が求められる。また「病院完結」医療から「地域完結」医療が求められてきている。このような状況で必要なのは「病院の最適化」と「地域

の最適化」である。そのためには「見える化」が必要であり、データに基づいた判断が不可欠となってくる。

このような改革にはトップマネジメントのリーダーシップが欠かせなく、いかにして「新しい価値創造」を行えるかが問われてきている。千葉大学医学部附属病院の役割と課題

このように社会が大きく変わり求められる医療も変わる中で千葉大学医学部附属病院の役割も大きく変わり、それをいかにして達成するかが大きな課題になってきた。役割として考えなければならぬのは附属病院の持つ全国区での顔と地方区での顔である。そのどちらでも重要な

のが「診療の質」の担保と「経営の質」の担保である。千葉大学医学部附属病院の現体制はそのどちらも視野に入れて頑張っておられるので心強い限りだが、変化する社会にさらに適応していけるかが問われてくるのではないだろうか。このような改革は大病院が単独で行うのは難しいことなので色々なステークホルダーの関りが必須になってくる。勿論、るのは同窓会の役割も大きく問

われてくるものと思われる。おわりに
改革のキーワードは「見える化」、「診療の質」と「経営の質」、「病院の最適化」と「地域の最適化」である。最後に「種の起源」の

チャールズ・ダーウィンの言葉と言われているフレーズを紹介する。
「種の中で生き残る者は最も強い者でもなければ最も賢い者でもない。それは変化に最も順応できる者である。」

東京ののはな会総会

東京ののはな会会長
千葉大学ののはな同窓会副会長

吉原 俊雄 (昭53)



ました。

平成30年度千葉大学ののはな同窓会総会を、6月9日(土)に東京ののはな会が担当させていただきました。全国総会に先立ち同日東京ののはな会総会を開催、東京支部から千葉大学ののはな同窓会の理事として新たに栗原正利氏(昭54)と井上賢治氏(平5)を推薦し、承認されました。今後、新理事として同窓会の発展に寄与するため活躍いただくことになり

平成30年度総会において選出された名誉会員

- 青木 謹 氏 (昭36) 宍倉 正胤 氏 (昭37)
- 濟陽 高穂 氏 (昭45)



教授就任挨拶

千葉大学子どものこころの

発達教育研究センター

認知情報技術部門 教授

大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所

こころの認知行動科学講座 教授 兼任

平野 好幸 (岐阜大農・平11)



この度、千葉大学子どものこころの発達教育研究センター教授に任ぜられました。

私は岐阜大学農学部獣医学科を平成11年に卒業しました。卒業研究では幼少時から興味があった動物の考えていることを学ぶため、脳波の研究を始めました。博士課程に進学する頃には指導していただいていた講師の大野勝利先生がご逝去され、また進学後まもなく指導教員が異動されたこともあり、当時普及し始めていた機能的磁気共鳴画像(fMRI)の研究を手掛

識を学ばせていただきました。中でも分子イメージングセンターチームリーダーの小島隆行先生(現分子イメージング診断治療研究部次長)には、脳血流量を画像化するfMRIによる脳微小循環の研究に携わらせていただいた上に、留学の実現に多大なご助力をいただきました。

2007年6月より米国立衛生研究所(NIH) S Afonso Silva 先生の研究室で高磁場MRIによる脳微小循環の研究を行いました。Liu Junjie 先生(現イェールニューヘイブン病院医師)、Kan Yu 先生(現マックス・プランク研究所グループリーダー)、Jongho Lee 先生(現ソウル大学校准教授)、福永雅喜先生(現生理学研究所准教授)を始め素晴らしい同僚や共同研究者に恵まれて多くの研究に携わることができました。

アメリカカ生活4年目になる2011年6月に、千葉大学医学部認知行動生理學助教の松澤大輔先生(現子どものこころの発達教育研究センター特任准教授)のご紹介と同清水栄司教授のお招きにより、設立直後の千葉大学大学院医学研究院附属子どものこころの発達

自治医科大学

メディカルシミュレーションセンター 教授

川平 洋 (平4)



本年4月より自治医科大学メディカルシミュレーションセンターに教授として着任いたしました。自治医科大学メディカルシミュレーションセンターは前任の初代河野龍太郎教授(元航空管制官、東京電力原子力研究所研究員)によって、2008年7月メディカルシミュレーションセンターとして開設されました。私は2代目となります。千葉大学ではフロンティア医学センター(林秀樹教授)所属で、外科医、工学部准教授として医療者向け身体サポート用ウェアラブル機器開発、人工知能(ディープラーニング)による医用画像診断支援の研究開発を行ってまいりました。

私は千葉大学医学部を平成4年に卒業致しました。学生時代は医学部水泳部に所属し西千葉のプールで個

人メドレーのタイムアップに励み、友人たちと酒を酌み交わしながら人生について大いに語り合ったことは良い思い出です。その頃の仲間が皆、医療の第一線で活躍し、今でも付き合いが続いています。

卒業後は第二外科(磯野可一教授、後の学長)に入局し、千葉大病院、千葉社会保険病院、鴨川市立国保病院で各1年の外科研修後、大学院に進学。2年間の基礎研究配属先として附属高次機能制御研究センター(免疫機能分野(谷口克教授、現理化学研究所統合生命医科学研究センター特別顧問)にて古関明彦先生(現理化学研究所グループディレクター)にマウス胸腺発生機序を研究テーマに直接ご指導いただき、学位を取得することができました。古関先生とは現在でもたいへんありがたいことにお付き合いいただいております。

大学院終了後、国立がんセンター東病院肝胆膵外科(木下平部長、現愛知県が

んセンター総長)にて、がん専門修練医として2年間、手術と腫瘍治療、腫瘍発生機序について学びました。忙しくも充実した当時の経験が現在の私の医療機器開発研究の情熱の礎になっております。私の医師人生でとても貴重な時代だったと感謝しております。

2001年6月から米国カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校(UCCSF)糖尿病センターで3年半、同ロサンゼルス校(UCLA)で1年半、計5年間の研究留学をさせて頂きました。マウス脾発生機序のテーマでJuvenile Diabetes Research FoundationのFellowshipに採択され、予定よりも長く研究生活に没頭することができました。

2006年7月に帰局後は先端応用外科(落合武徳、松原久裕准教授)にて胃グループに配属され、胃癌を専門として腹腔鏡下手術や集学的治療に携わりました。腹腔鏡手術、産学連携での機器開発に着手し始めたのがこの時期です。2010年からはフロンティアメディカル工学研

研究開発を加速させ、練習用持針器、手術練習用ボックストレーナーや練習用機器、サージカルニードルストやアルケリス、アシストスーツなどの医療者向け身体サポート機器を製品として世に送り出すことができました。同時に「健康屋台」と称した地域住民の方々のための健康管理イベントへ参加し活動を拡大していくことも、地域医療を主眼とする自治医科大学とご縁につながったのだと思います。

今後は研究対象領域を医学教育や卒業研修まで広げ、eラーニングやバーチャルリアリティ、人工知能による効率的で精度の高い医学教育システムの研究開発を行う所存です。

臨床の現場は高度化、細分化してきている現代において医師をはじめ医療関係者は限られた時間の中で日進月歩の技術を確実に習得していかなければなりません。今後の日本の医療レベルの更なる向上と、効率的な医学教育と医療資源の有効活用のために、さらに精進する所存です。千葉大学の諸先生方には今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りませう、よろしくお願い申し上げます。

獨協医科大学医学部

生理学（生体情報）講座 主任教授

神 作 憲 司（平7）



本年4月1日付で獨協医科大学医学部生理学（生体情報）講座の主任教授を拝命いたしました。同門の先生方をはじめ多くの方々にご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

私は、平成7年に千葉大学を卒業後、山浦晶先生（昭40）、脳神経外科医会・同門会の先生方のもとで臨床を経験しました。そのなかで、脳神経疾患に伴い脳機能を失うことが患者・家族・社会に与える影響は甚大であり、これを科学的に低減させることが必要であると感じました。そこで大学院に進学し、神経生理学分野にて、中島祥夫先生（昭46）、北澤茂先生（現・大阪大学）、河野憲二先生（京都大学名誉教授）らにご指導頂き、研究の道をおゆみはじめました。

らの情報を抽出し、脳の動作原理とその機能を解明する研究を行いました。つくばの産業技術総合研究所では、当時希少な3テスラfMRI装置を工学研究者らとの協力のもと立ち上げて実験を行い、後部言語野の側性化に著明な男女差があることをはじめて画像化するのに成功しました。博士号取得後は、米国NIH・NINDS (Mark Hatton チーフ)、生理学研究所大脳皮質研究系（定藤規弘教授）にて、外界の変化を意味づけて認知する際の脳内機構に着目した研究を行いました。

これらは、国立障害者リハビリテーションセンター研究所にて、自己と外界の関係を把握するための脳内情報処理を明らかにするための研究として発展させました。英国Oxford大学とすすめた研究では、切断肢患者が残存筋からの信号を利用して制御可能なロボットアームを開発し、そのアームへ患者の身体性を拡張させることに成功しまし

国際医療福祉大学医学部

神経内科 教授

内 山 智 之（長崎大・平7）



この度、平成30年4月1日付で国際医療福祉大学医学部神経内科の教授を拝命しました。

私は、長崎大学医学部を卒業後、沖縄県立中部病院で、スーパーローテート制での初期研修を行い、欧米式かつ屋根瓦式の教育を受ける中、患者全体をみる必要がある神経疾患とほぼすべての診療科に関連している神経内科学の奥深さに強く興味を抱くようになりました。もともと脳神経の働きに興味があったこと、医学生時代のBSLで神経内科に関心を持ったこと、また当時は不可能とされていた神経再生の可能性について思いを馳せていたことなどもあり、研修後、神経内科の道に進むことになりました。

た。また、動物を用いた行動生理学の実験も行い、マウスに自己の身体像があることを示唆する結果を得ました。さらに、脳情報をより積極的に利用するブレイン・マシン・インタフェースと呼ばれる技術の研究開発にも取り組みました。脳波信号を計測して符号化し、これを機器へと繋いで利用することで、コミュニケーション補助や運動補助を行う機器を開発し、その開発機器を用いた実証評価をすすめました。

生理学（生体情報）講座は、昨年度まで堀雄一先生（昭52）が主宰されておりました。獨協医科大学では、同門の先生方にご指導頂く機会に恵まれていきます。今後とも、脳情報に基づき脳の動作原理とその機能を解明する研究を進めるとともに、生理学を臨床と結びつけられる形で習得するための教育を実践致したいと考えております。先生方のご指導ご鞭撻を、どうぞよろしくお願い申し上げます。



生方にご指導いただきました。平成15年から1年間は、服部孝道先生の勧めにより、神経生物学教室にて基礎研究を行う機会にも恵まれ、千葉胤道先生（前神経生物学教授）や瀧口正樹先生（現遺伝子生化学教授）、関直彦先生（現機能ゲノム学准教授）のご指導の下、研究の幅を広げることができました。

平成9年に千葉大学医学部神経内科に入局するとともに、大学院にも入学させていただき、臨床と研究を同時に開始しました。

千葉大学では、服部孝道先生、桑原聡先生（現神経内科学教授）、榎原隆次先生（現東邦大学佐倉医療センター神経内科教授）をはじめ、神経内科の先生方、臨牀、研究、教育のイロハをはじめ、様々なことを教えていただいたほか、貴重な機会を沢山与えていただきました。また同期や先輩、医師以外の医療関係者の方々にも恵まれ、多くの臨床経験を積むとともに、自律神経学、特に神経疾患の排泄機能障害の研究やパーキンソン病および関連疾患において機能神経・神経生理学的研究などを行うことができました。これらは現在も私の研究生活の主軸となっております。共同研究では、脳神経外科、消化器内科、呼吸器内科、第二内科（現細胞治療内科）、整形外科、精神神経科、臨床検査部、臨床試験部の先生方

らと、平成24年からは、山西友典先生（現排泄機能センター教授）からのお誘いに従い、獨協医科大学に移り、国内初の排泄機能センタールの立ち上げに携わりました。獨協医科大学では、稲葉憲之先生（前学長）、福田健先生（前副学長）、吉田謙一郎先生（現副学長）などの先生方の下、平田幸一先生（現病院長・神経内科教授）をはじめ神経内科の先生方にご指導・ご協力をいただきました。ほか、様々な機会を与えていただき、多くの臨床および研究の成果をあげることができました。また釜井隆男先生（現泌尿器科教授）や泌尿器科の先生方には診療やセンターの運営などでお力添えをいただきました。センターの運営や共同研究では、整形外科、脳神経外科、産婦人科、小児科、リハビ

リテーション科、臨床検査部、放射線部など各部署の先生方やスタッフの方々にもお世話になりました。

平成29年には、イギリスの Institute of Neurology、University College London (UCL) に留学し、J. N. Panicker 先生の下で、専門分野の神経泌尿器学や神経消化器学のほか神経学全般を国際基準で学び、また海外生活を経験することで、様々な見識を広げることができました。帰国してからも留学先との研究は続いており、今後さらに発展させることができると思っています。

現在の私があるのは、千葉大学の諸先生方をはじめ、獨協医科大学の諸先生方や大学内外の多くの方々のご支援の賜物だと思っております。この場をお借りしまして、皆様方に心よりお礼申し上げます。

桑原聡先生のご厚情により赴任いたしました国際医療福祉大学医学部は、2017年に新設された医学部です。医学部附属病院の開院は2020年であり、現在私自身は関連病院の市川病院で診療に従事しながら、成田キャンパスでの医学部の教育や病院の開

す。医学部と医学部附属病院の新設にあたっては、多くの約束事があるほか、新しいシステムでの医学教育、International かつ国際的に認証される医師の育成、地域および国際医療への貢献、医学研究による医療貢献など多くの大きな目標が掲げられています。また広い視野や自身の目標を持ち、自ら考え、責任を持って行動できる人材の育成という、型にとらわれない個性を尊重した教育・指導の実践もあり、私どもの責務は大変大きなものだと考えています。

浅学の身ではございますが、千葉大学の同窓の先生方をはじめ、全国から集まった先生方と協力、連携しながら、臨床、研究、教育それぞれで着実に成果を上げていきたいと思っております。

千葉大学のはな同窓会の先生方に於かれましては、今後とも尚一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

の医学部の教育や病院の開

病院長就任挨拶

千葉県立佐原病院

病院長 山本 宏 (昭53)



小学校時代から地図を見たり、描いたりするのが好きでした。描くと言っても架空の都市や地域をイメージして市街地の広がりや地形、鉄道網を描いた記号の社会を作り出すという作業です。そしてその想像の世界に没頭する時間を楽しんでいたのであります。今でも本

当の地図を眺めることが大好きであり、地図から連想される社会に時々入り込むことに小さな喜びを感じています。

江戸時代に日本全国を測量し、大日本沿海輿地全図を完成した伊能忠敬を輩出した佐原の地にある千葉県立佐原病院に消化器外科医として赴任することが決まった2年前、子供の頃のことか思い出され、ちよつとしたワクワク感を覚えま

した。そんなことを漫然と考えながら2年がすぎ、この4月から病院長職に就くことになりました。

減少社会になっても高い高齢者比率は続くことが予想され、その高齢者は行動範囲が制限されるため、地域密着者にならざるを得ない状況になっていきます。当院で力を入れて推進すべきことは、急性期医療の充実に加えて、訪問看護を中心とした在宅医療体制の確立ということになります。高齢者は医療施設ばかりでなく福祉施設を必要とされる世代であり、それらのネットワーク作りで当院が役買

い、都市政策と融合したコミュニティの構築に繋がってくれたらと考えています。また、それが、京都大学こころの未来研究セン

ター教授(前千葉大教授)である広井良典氏が提唱する未来型の経済圏を作り出し、地域に活力を生み出す源になるのではないかと密かに願っています。伊能忠敬を育てた佐原において地域医療に関わる新しい地図を描くことができれば、いなども感じていきます。

掲げる取り組みを具体化させるためには佐原病院の医師不足を改善しなければなりません。医師の派遣に

千葉県救急医療センター

病院長 石橋 巖 (昭55)



平成30年4月千葉県救急医療センター病院長を拝命いたしました。私は卒後7

年目の1986年に稲垣義明第三内科教授(現循環器内科教室)の命により、シ

た。お二人とも循環器疾患に對して高い見識をお持ちになり、最先端の治療を行なっておりました。その姿を目の当たりにして私は大変感銘を受けました。特に急性心筋梗塞に對しては冠動脈内血栓溶解療法(PTCR)を積極的に行っておりましたが、当時PTCRを行なっている病院は県内には殆どありませんでした。1990年より急性心筋梗塞に對してPTCA治療を開始し、1992年には当時米国で急性心筋梗塞に對してもPTCA治療に取り組んでいたDr. Hartzlerの施設(MidAmerica Heart Institute)のPTCAの

テクニックを受ける機会を頂きました。Dr. Hartzlerから学んだPTCAに関する技術や冠動脈造影に関する技術(造影angiography)などは、帰国後早速救急センターに取り入れ、現在もお当センターにおける冠動脈造影や形成術手技の基礎となっています。

救急医療センターでは急性期の患者さんに色々なアプローチをすることが可能です。中でも私は核医学検査に大変興味を持ちました。1990年代前半に新しい心筋血流シンチグラ

の心筋血流シンチグラ



ファイ製剤であるMIBIが日本でも使用できるようになり、これにより急性心筋梗塞の再灌流療法前後における画像評価が可能になりました。私はこれこそ急性心筋梗塞におけるPTCA治療の治療評価ができる斬新な検査法であると考え、一生懸命急性心筋梗塞患者のMIBIによる心筋血流シンチグラフィ撮像を行いました。この仕事は当時の第三内科教授増田善昭先生ご指導のもと学位論文となりました。1997年より急性心筋梗塞に対するステント治療を開始し、急性心筋梗塞に対するステント治療の向き研究も行いました。その後21世紀に入ってから、急性冠症候群における冠動脈CT画像所見な

どの研究やタコツボ型心筋症におけるMR画像所見に関する研究も行い、これらは千葉大学循環器内科教室の高岡浩之先生(平14)や加藤賢先生(平21)が国際学会で発表し、立派な論文に仕上げました。救急医療はマンパワーが絶対的に必要条件である領域ですが、病院経営的には大変難しい領域です。医療安全を担保しつつ経営効率もよい病院経営を目指すという難しい舵取りが必要です。今後は病院長として、職員全員が救急医療に対する高いモチベーションを保ちつつ、県民の期待に応えられる安全、安心の医療が提供できる病院となるよう尽力したいと思っております。

千葉県済生会習志野病院

病院長 小林 智(昭58)



私は昭和58年に千葉大学医学部を卒業し、稲垣義明教授が主宰されていた当時

の第三内科に入局しました。その後、昭和59年と平成元年に国立習志野病院(千葉県済生会習志野病院の前身)に出張しており、つくづく習志野の地と縁が深いと感じております。その出張の合間に心臓血管研究所附属病院に2年間

研修させて頂き、不整脈の治療について多くのことを学ばせていただきました。その後大学に戻り、不整脈の臨床に携わるとともに、中谷晴昭教授の薬理学教室で基礎的な実験もさせて頂きました。そして平成13年に、国立習志野病院が済生会に移譲される際にこちらに赴任してきております。当初、循環器内科医3名で始まったのですが、お陰様で現在は循環器内科医8名まで増やすことができ、病院全体でも常勤医100名を超える状況になっております。内科は消化器、循環器、代謝、血液、呼吸器、リウマチ膠原病、神経内科とあり内科専攻医の基幹病院になっております。外科系は外科、乳腺外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、産婦人科、歯科口腔外科、皮膚科、麻酔科、放射線科などがあり、今年4月より念願の心臓血管外科も立ち上げることができました。

際には大変助かっており、この場をお借りして御礼申し上げます。今後、高齢化がさらに進み、介護との一体化、在宅医療の推進、それに加えて地域医療構想や働き方改革、高齢者や終末期医療に対する急性期病院の役割、地域住民のニーズに応えながら急性期病院としての責務を全うすることの難しさなどなど問題が山積になっております。病院にとっては大変な時代に入ってきておりますが、微力ながら当院のなすべき役割を果たすべく、奮迅してまいる所存ですので、ご指導、ご鞭撻よろしくお願いいたします。

人事異動

准教授

呼吸器内科学

坂尾誠一郎(平5)

(呼吸器内科学講師より)

消化器内科学

露口 利夫(昭59)

(同講師より)

他大学教授

神奈川歯科大学大学院

全身管理歯科学講座

古出 智子(平13)

千葉市医師会

会長 斎藤 博明(昭55)

2018年 第43回 りのはな美術展

—千葉大学医学部OBによる美術展—

9月24日(月)～9月30日(日)

AM11:00～PM6:00 最終日4時

初秋の候、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。例年通り下記の会場で、第43回展を開催いたします。ご多用中恐縮ながら何卒ご高覧賜りたくご案内申し上げます。

銀座 ギャラリー向日葵

T104-0061
東京都中央区銀座5-9-13
銀座朝日ビル2F

TEL 03-3573-1580



りのはな同窓会賞受賞候補者募集要項

第二四回(二〇一九年度)りのはな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集いたします。

一、受賞対象者

①社会貢献賞 本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に高い貢献をした個人またはグループ。

②功 労 賞

医学および広く文化の各領域において、千葉大学および千葉大学りのはな同窓会に多大の貢献をした者。

二、表彰

①社会貢献賞(三件以内) 盾および賞金(総額三十万円以内)を贈呈します。

②功 労 賞

(一件以内) 盾および賞金十万円を贈呈します。

三、応募方法

所定の申請用紙により、二〇一八年十二月一日から二〇一九年一月三十一日までに申請して下さい。

四、受賞者の決定

選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。審査結果は二〇一九年五月中頃までに各申請者に通知すると共に、りのはな同窓会報に掲載します。

五、問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内、りのはな同窓会事務局
申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

受章の挨拶

瑞宝中綬章

瑞宝中綬章を拝受して

大塚 嘉 則 (昭39)



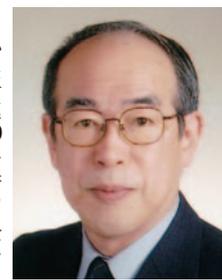
私は千葉大学医学部昭和39年の卒業です。整形外科を専攻し大学院終了後、千葉大学医学部附属病院講師から国立療養所千葉東病院の初代整形外科医長として赴任、平成17年3月同病院院長を最後に定年退職しました。

専門領域は脊椎外科で、中でも脊柱側弯症の学校検診に今日まで取り組んできました。近年は昔のような高度重症な脊柱変形を見ることがほとんどなくなりましてが、これも教育現場、行政の方々のご理解あつてのことです。

この度はからずも春の叙勲にあずかることとなりましたが、これは長年私を支えて下さった皆様方のお陰でありその代表として私が拝受したものと考えています。在職中の思い出に残る数々

瑞宝中綬章
瑞宝中綬章を授章して

小山 哲 夫 (昭43)



私は平成30年春の叙勲に際し、図らずも瑞宝中綬章の栄に浴し、身に余る光栄と感謝致しております。卒業は昭和43年で、本年度卒業後50周年となります。インターン紛争で入局が遅れ、昭和46年10月千葉大学附属病院第一内科医員になりました。第一内科では、東條静夫先生、成田光陽先生に師事し、腎炎・ネフローゼ症候群の臨床を学びました。その間、第二病理学教室において岡林篤教授、多田富雄教授、重松秀一先生に免疫病理学について多くを学び、大変お世話になりました。

東條静夫先生は昭和50年4月から筑波大学臨床医学系教授として、成田光陽先生は昭和52年に筑波大学助教として転任致し、筑波大学臨床医学系に腎臓内科の準備に当たられておりま

私の好きな言葉は「吾、唯、足るを知る」で、これからのんびり生きていられればいいなと考えています。昨今です。

器・臓器移植学外科学教授をお勤めになられ、筑波大学退官後、茨城県立医療大学設置準備室長を勤め、平成7年に茨城県立医療大学初代学長に就任されました。岩崎先生は「共に生きる社会に貢献できる人材の育成」を目指し、看護学、理学療法学、作業療法学、放射線技術学科に加え、医学センター、人間科学センターを擁する高度医療専門職教育システムを構築されました。最先端の研究棟を備え、国公立大学としては初めてリハビリテーション専門の120床の附属病院を有しております。

私が平成17年6月に、茨城県立医療大学4代目学長として就任した時には、附属病院経営や大学の将来計画などについて、独立法人などの設置形態を含めての議論が活発に行われており、また大学認証評価機関による大学評価の承認、大学院博士課程設置などが現実的な問題になっておりました。県および教職員の総意として、設置形態をめぐり、大学の運営を行うこととなり、また大学院博士課程の設置が許可されました。

茨城県立医療大学初代学長である岩崎洋治先生は千葉大学第二外科の出身で、昭和50年より筑波大学消化

間3000名を超える専門職が社会に巣立っており、この内80%以上の卒業生が茨城県を中心とした地域保健・医療の分野の中核となつて活躍しております。「共に生きる社会に貢献できる人材」の大切さを学ばせて頂きました6年間でした。

瑞宝小綬章
瑞宝小綬章拝受の栄に浴して

成 田 光 陽 (昭28)



平成30年春の叙勲に際し、はからずも瑞宝小綬章を拝受の栄に浴し身に余る光栄と感激いたしております。これもひとえに永年に亘る皆様方のご指導ご鞭撻の賜と心より感謝申し上げます。

私は昭和28年に千葉大学医学部の前身である千葉医科大学を卒業後、千葉大学医学部第一内科に入局し、臨床および研究の場で研鑽を積んでまいりました。昭和52年に筑波大学へ移り、臨床医学系教授および副院長などの役職を賜り、主に慢性糸球体腎炎や腎不全などの腎疾患治療に邁進し、その後は水戸中央病院、大場内科クリニック等茨城県下の施設や山王病院

なつて活躍しております。「共に生きる社会に貢献できる人材」の大切さを学ばせて頂きました6年間でした。

その間、日本腎臓学会では理事職に就かせて頂き、現在の公益財団いばらき腎臓財団の前身となる茨城腎バンクの設立に尽くし、13年間にわたり腎臓移植や腎不全予防対策事業に尽力してまいりました。また、厚生労働省における小児慢性腎疾患の予防・管理・治療に関する研究班、小児腎疾患の進行阻止と長期管理システム化に関する研究班及び厚生省腎不全医療研究事業の慢性疾患の保存療法に関する研究班の班員として研究成果を世に還元すべく努めてまいりました。平成5年から9年間にわたり茨城人工透析談話会の会長、東洋医学の腎臓疾患の指導医として茨城県の腎疾患及び腎不全医療の技術向上の一助となるべく努力してまいりました。

り扱いを、家内が病に倒れ

うであります。
そういえば、開業以来助産師であった家内と共に苦

も春の叙勲の栄に浴する羽目(?)になった。
これが私の日頃からの医学関連の研究等が、評価さ



平成25年5月には日本腎臓学会から上田賞を頂戴する等、まさに私の人生は日々腎臓の研究に明け暮れ、編み出した治療手段を世に還元すべく捧げてまい

りました。この度の栄誉は、そんな私に対して皆様方から戴いた永年の暖かいご支援の賜であります。これからは変わらぬご指導を宜しくお願い申し上げます。

木下 昌(昭38)

から「君、叙勲の表彰を受けただって？」等と言われますと、何となく後ろめたい気持ちと云いますか...

です。ですから医師会の諸先生から「君、叙勲の表彰を受けただって？」等と言われますと、何となく後ろめたい気持ちと云いますか...

て以来、取り止めて、体力的に楽になった頃を見計らう如くに我が医院の近くに千葉東警察署が開設される事となったのであります。また偶然にも医師会やゴルフ場での大先輩の斉藤左文先生(故人で現警察医会長の斉藤文平先生の父上にあたる方)からお電話を頂戴し「君、是非警察嘱託医をやってくれないか。」との強いお誘いがあり、いやいやながらお引き受けして以来30年余りに亘って死体検案や留置人の健康管理等々の仕事を続けている訳であります。

等と言いつくしているところ。
ここで警察嘱託医の仕事についてひと言ご説明させていただきます。最近、ご自宅でお亡くなりになられる方が多く、「孤独死」とも云われますが、「孤独死」と云う言葉が、勝手に一人歩きをし、何か「とても不幸な死に方」の様に思われている方が多く居られるようです。しかし、私に言わせれば、決して「孤独死」は「不幸な死」ではなく誰にも迷惑を掛けない「むしろ理想的な」死に方だと思っております。これは多くある検死の中のほんの一例ですが、ある農家のおばあちゃんが、3年以上長患いの後亡くなった症例に出くわしました。家の中に入っ

てすぐに気付いたことですが、家族の顔がなんと皆晴れ晴れとしていた事か...今でも目に浮かぶ程の光景でした。このおばあちゃんが如何に家族にご負担をかけて居たのか、その苦勞の程は察するに余りあるモノであります。

の世に逝けた」症例と比べると、先程からお話に出てきた、トイレでいつの間にか一人で亡くなっていたとかのいわゆる「孤独死」が如何に理想的(?)な「逝き方」かがお解り頂けたかと思えます。
よく、人生「ゆりかごから墓場まで」等と言われますが、私は医師として最初の「ゆりかご」の近くで「お産」に携わり、その逆の「お墓」の近くでは警察医として「死」に立ち会い、その両方(両端)で仕事に携わった事になってしまいました。今となつては、最初の頃のお産で書いた「出生証明書」の数より最後の方で書いた「死亡診断書」の数の方が圧倒的に多くなつてしまつている状態です。

田邊 政裕先生(昭49)
日本医学教育学会 牛場賞 受賞

警察関係の仕事も、いわゆる「お産」と同じ様に夜中に起こされる事だつてあるし、いわゆる「お産」程ではないにしても、人の一生の「重大事」である事は論を待たない訳で、この様にその両方で「お役」に立てた事を誇りに思う次第であります。

この様に家族にさんざん苦勞をかけた上「やつとあの世に逝けた」症例と比べると、先程からお話に出てきた、トイレでいつの間にか一人で亡くなっていたとかのいわゆる「孤独死」が如何に理想的(?)な「逝き方」かがお解り頂けたかと思えます。
よく、人生「ゆりかごから墓場まで」等と言われますが、私は医師として最初の「ゆりかご」の近くで「お産」に携わり、その逆の「お墓」の近くでは警察医として「死」に立ち会い、その両方(両端)で仕事に携わった事になってしまいました。今となつては、最初の頃のお産で書いた「出生証明書」の数より最後の方で書いた「死亡診断書」の数の方が圧倒的に多くなつてしまつている状態です。

第94回千葉医学会 学術大会
日時: 平成30年10月10日(水) 16:20~17:30
招待講演: 研究マインドを持った呼吸器臨床-病態生理から分子病態へ-
演者: 巽 浩一郎 先生 (千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学 教授)
座長: 小林 欣夫 先生 (千葉大学大学院医学研究院 循環器内科学 教授)
会場: 千葉大学 みののはな記念講堂 (千葉大学交野キャンパス内)
お問い合わせ: 千葉医学会

平成30年度 千葉大学 校友会総会・ホームカミングデー
平成30年11月3日(土・祝)
会場: けやき会館
1. 校友会総会 13:00 - (予定) 於 レセプションホール
2. ホームカミングデー 14:00 - 16:00 (予定) (一般の方にも公開になります) 於 大ホール
講演会: 千葉大学 大学院医学研究院 並木 隆雄 准教授 (予定) (医学部卒業)
社交ダンス: お笑いコンビ ばいんはうす 岸 英明さん(予定) (愛称 ロベスさん) (大学院理学研究科修了)
3. 懇親会 16:30 - (予定) 於 レストラン「コルザ」
校友のみなさまのお越しを心よりお待ちしております

の は な 同 窓 会 地 区 会 長 換 拶

栃木県ののはな会会長を拜命して

栃木県ののはな会

会長 十川 康 弘 (昭55)



今年度から、崎尾秀彰前会長(昭44)のご指名で、栃木県ののはな会会長を拜命いたしました。わたくしは、昭和55年(1980年)本学卒業で、卒業と同時に旧第一外科に入局いたしました。生まれも育ちも東京の田無市(現西東京市)です。大学では軟式テニス部に所属していました。第一外科では、奥井勝二元教授(昭28)の1期生で、茨城県西総合病院、浦賀病院、国立横浜東病院にローテートしましたが、いずれの病院も既に統廃合や、売却などで千葉大学との縁も薄くなっています。日本医療の大変革に否応なく立ち会わされてきたと感じます。最も長くお世話になった横浜では、神奈川ののはな会

に参加させていただき、同窓会の活性化に奮闘されていた故富田裕先生(昭30)に同窓会のあるべき姿を教えていただきました。平成20年に、宮崎勝前臓器制御外科学教授(昭50)のご高配で、それまであまり縁のなかった栃木県に、上都賀総合病院の副院長として赴任してまいりました。平成22年から上都賀総合病院病院長となり、早々に千葉大学ののはな同窓会報に、就任あいさつ文を掲載していただき、大変感激いたしました。

歴代の栃木県ののはな会長は、栃木県に根を下ろしている方々ばかりでしたが、わたくしは、勤務地としての会員で、定年まで残り2年半と迫っている中で、会長拜命ですので、まずは、今後の支部継続体制の構築をすることが急務となっております。現在の私以外の役員は、副会長に星野聡(昭43)、理事に大宮

安紀彦(昭53)、小池正造(昭53)、廣田勝太郎(昭55)、石塚満(平3)、森本直樹(平3)、斎藤弘司(昭43)、戸邊豊(昭43)と組織しています。同窓会とは、千葉大学卒業生または、千葉大学医局出身者が、医師を続けていく中で、懇親や連携、時には助け合う場を作ることが基本だと思えます。神奈川県では、わたくしが参加していたところは、会員数が80人くらいでした。それに比べて栃木県は会員数100人です。しかし、会員数の多寡にかかわらず、いずれの同窓会でも、総会への参加人数は少なくなっており、どの県においても会の活性化が課題になっています。妙案はありませんが、人数が少ないことを逆手にとって、全員に声をかけていければと考えています。どうぞよろしくお願いたします。

各地ののはな会 だより

栃木県ののはな会

平成29年度栃木ののはな会総会が平成30年1月21日(日)午後2時より、例



年通り宇都宮市内のホテルニューイタヤで開かれた。出席者は千葉大学特任教授田邊信宏先生、吉川広和埼玉ののはな会会長、鈴木守群馬ののはな会会長、本会員16名、そして特別公演を引き受けていただいた東照宮宮司稲葉久雄様、計20名であった。当日は「国際医療福祉大学医学部教授就任壮行会」が開かれたため、済陽高穂全国ののはな同窓会会長(昭45)始め、各県ののはな会長で欠席された先生が出た。さらに当会理事の大宮安紀彦先生(昭53)が交通事故に遭われ、また早乙女勇先生(昭48)が病気のため出席できなかった。前会長坂田早苗先生(昭34)も私用により欠席された。

平成27年は徳川家康公薨去400年に当たり、日光東照宮400年式年大祭が行われたこともあり、崎尾秀彰会長が肝入りでののはな会会員以外の方を初めて講演に呼ぶことになった。

総会はずまず崎尾会長が今季限りで会長を辞し、次期会長に上都賀総合病院院長の十川康弘先生を指名したことを報告された。次いで物故会員2名(柴崎晃先生

昭28)、西川侃介先生(昭35)に対する黙祷を行った。会計、監査報告等の後、講演会に移り、始めに田邊信宏教授より「肺血栓塞栓症の診断と治療」をテーマとする講演があった。同疾患は急激に増加しており、有効な薬剤も開発されず、治療には何よりも各診療科の連携は言うに及ばず、地域病院と大学病院の連携が必要であると話された。司会は当会理事廣田勝太郎が務めた。続いて、日光東照宮宮司の稲葉久雄様「日光東照宮・400年式年大祭から新たな出発」と題し、日光東照宮の歴史と徳川家康の偉業について話された。アメリカ大統領ワシントン、ジェファソン、リンカーンの行った仕事を徳川家康は一人で成し遂げたと評価するアメリカ人学者の著書も紹介され、最後に「東照公御遺訓」「人の一生は重荷を負って遠き道をゆくが如し。急ぐべからず。不自由を常とおもへば不足なし、こゝろに望みおこらば困窮したる時を思ひ出すべし。堪忍は無事長久の基。いかりは敵とおもへ。勝事ばかり知てまくる事をしらざれば害其身にいたる。おのれを責て人をせむるな。及ばざるは過たるよりまさ

れり」で締め括られた。会員一同身にしみて聞き入った次第であった。司会は大井利夫先生が務められた。懇親会では吉川広和先生、鈴木守先生より挨拶があった。ついで次期会長を受けた十川康弘先生より決意を込めた挨拶があった。足立武則先生は旧第一外科の先輩にあたる齋藤混先生(金沢大・昭40)が宇都宮に設けた医院を引き継いで、その抱負を語った。例年より参加者は少なかったが懇親会は和気藹々の中、森俣久夫先生の中締で終了した。

写真右から
前列・星野聡(昭43)、門馬公経(昭42)、矢澤卓也(筑波大・昭63)、大井利夫(昭35)、稲葉久雄(日光東照宮宮司)、崎尾秀彰(昭44)、田邊信宏(昭60)、吉川広和(昭40)、鈴木守(昭39)
中列・石塚満(平3)、廣田勝太郎(昭55)、十川康弘(昭55)、森俣久夫(昭51)、足立武則(昭56)、高原正信(昭57)、斎藤弘司(昭43)
後列・小池正造(昭53)、森本直樹(平3)、須田啓一(昭52)、戸邊豊(昭43) 旭川医大・平元 (廣田勝太郎)

るのほな一杯会

平成30年7月1日、京成ホテルミラマールにて、平成30年度るのほな一杯会が開催された。会員は、千葉

中学校、千葉第一高等学校、千葉高等学校を卒業し、千葉医学専門学校、千葉医科大学、千葉大学医学部及び医学部附属病院に在籍した、あるいは在籍中の医師および学生であり、卒



業生25名、在学中学生15名が参集した。

田邊政裕会長より開会の挨拶があり、総会が開催された。会則の一部変更、会計報告や今後の運営など討議された。その後、年長者の市川邦男先生の乾杯の挨拶があり、懇親会に移った。昨年度から田邊会長の発案で、在学生が各テーブルを廻って卒業生に質問するラウンドテーブルを実施している。教室の選び方、専門医や博士号の取得方法、外科と内科の決め方、医師としてのありかたなど活発な意見交換がされて大変盛況であった。参加者一同集合写真を撮り閉会した。

写真右より

前列・神崎頼仁(昭46)、浅野武秀(昭44)、佐藤政教(昭44)、宍倉正胤(昭37)、松本生(昭36)、鈴木一郎(昭42)、田邊政裕(昭49)、市川邦男(専25)、中村宏(昭43)、大川玲子(昭47)、西川哲男(昭47) 二列目・井上祐三朗(平11)、古関明彦(昭61)、諏訪園靖(平6)、山本和夫(昭51)、杉田克生(昭54)、広瀬彰(昭48)、安西尚彦(平2)、菱木知郎(平5)、守屋拓朗(平14)、伊藤彰一(平10)

クラス会

千葉医科大学 昭26年卒業の 級友を思いみる (昭26)

三列目・伊藤美羽(医4)、佐藤奈緒(医4)、中曾根広拓(医4)、坂本孝生(医1)、小原久美子(医1)、松山友彦(医1)、宮川宏佳(医1)、大澤健太(医6)、布施和華子(医2)、福島剛(医3)、田邊裕也(医6)、新井和樹(医3)、吉澤和紘(医3) (杉田克生)

昭和22年千葉医科大学受験のために訪ねた千葉市は、爆撃のため未だ廃墟と化し、ただ、丘の上の大学附属病院が巨艦のごとく廃墟を俯瞰していた。東洋一と称するその附属病院は死ぬまで級友すべての目に焼き付いているであろう。当時関東で国立の医科大学は東大と千葉医大のみで、ほかは医学専門学校であった。病院は誇りの象徴のごとく厳然としていた。

従来は旧制高等学校卒業業者は無試験が多かったが、その年は2倍の競争率であった。かくて80名の級友が食糧不足の空腹を抱えながら、木造の基礎医学教

室と巨艦の病院まで千葉駅から30分徒歩で通学し、勉学を共にした。今から思えば、他の医学校にあった麻醉科、整形外科、脳外科、放射線科、泌尿器科などの教室がなかったのは不思議である。

千葉大学出身教授は臨床ではごく少なく、千葉大出身者は教授をめざし、東大出身教授は東大転任を目指しているようであった。それも利点で、研究に熱心で、活力が学生の教育に反映していたと想像しているが、理不尽な物語を聞いたこともある。



にあり、期末試験、卒業試験も受験すれば合格のように記憶している。4年間の勉学後、新制度の全科インターンを経て、基礎臨床全科目の医師国家試験を受け、医師免許状を得た。級友の合格率は100%であった。その後10%は基礎医学に、他の多くは大学の臨床各科に散らばっていった。基礎医学に行ったものの多くは学位を得て、臨床に戻り開業し、臨床に行ったものはその後病院勤務や開業の道をとった。開業は政府の優遇策をうけ、経済的に恵まれたように思う。級友の内10人は千葉または他

学で教授職についていた。 クラス会 がいっから 始まったか 写真右から 前列・ 小林夫人、 伊藤進、 大倉夫人、 伊藤夫人、 後列・ 風戸正巳、 鈴木徳雄、 大倉淳男、 奥田稔、 石井邦夫、 小林繁次

記憶がはっきりしない。手元の記録では、平成17年ニューオータニの中薬理店大観苑に21名が集まり、以後毎年6月同店でクラス会が開催された。10年後の平成26年ごろの参加者は10人に激減し、家族を交えて催された。年齢も米寿に至り、主に身体不調のための自立生活障害、逝去のためであろう。参加者10人を切った平成30年6月をもって解散した。年齢はすでに92歳、卒寿を越えている。しかしなお、診療に従事している者もいる。学の道を歩み続ける者もいる。 平成29年編集の同窓会名簿によれば、なお21名が生存しているが、自立生活不能のものが多くであろう。 われわれの級友は、戦中戦後苦難の学生生活を送った。しかし旧制高等学校の3年間の青春を過ごし、旧制医科大学の伝統を継ぎ、学問の道や地域医療に、国の制限に強く縛られることなく、患者との難しき関係も強くなく、まあまああの医師の道を歩いてきたと思っ

(奥田稔)

五五会 (昭30)

1955年卒業の五五会・有志の会は、今年も続けられ、6月10日(日)に、昨年の(銀座・花郷)から、お茶ノ水の(銀座アスタール)に会場を変更して開催された。

ここは、東京るのほな会です。いつも使用している所で、前日も東京るのほな会・るのほな同窓会総会を行ったばかりである。今回は直前で不参加となった人が多く出て、会員12名、同伴夫人4名と、かなり少ない人数となった。

集まる顔ぶれはここ何年か殆ど変わらない。超高齢となれば年々減っていくのは寂しいけれど、やむを得ぬことと受け止めるしかない。集まれるだけでも幸いである。

会の冒頭に、昨年以来鬼籍に入られた岩井忠志、高橋英男、野澤陽一郎、横田俊二の4君と、毎年同伴で見えて、今年も参加の通知をいただきながらその直後に亡くなられた永野夫人のご冥福を祈って黙祷を捧げた。悪いことは重なり、永野俊雄君自身も足を骨折して欠席となった。伊藤敏夫会長の挨拶、乾

杯のあと、歓談、近況報告など、楽しいひと時を過ごした。体は衰えても口の方は変わらず、現況では健康面の話が殆どなくなってしまふ。新しく疾病が見つかったり、長年の病状報告であつたりと話が尽きない。見ていると、多病ながら息災という人がこうして出て

こられるのだと改めて感じるのである。会の開催に併せて発行している会報では、会は欠席の人も近況については殆どの人が寄せている。まだ元気で現役並みの診療に従事している人から、老人ホームに入居、介護されている人まで様々な余生を送っておられる。家の中で自立しているが、乗り物を使つての遠出は無理という人も



写真右から
前列・・・
伊谷昭幸、高橋康、村瀬夫人、中野夫人、藤山夫人、伊谷夫人
後列・・・
加濃正明、藤山嘉信、小泉準三、清水良平、新井多喜男、中野政雄、村瀬靖、伊藤敏夫、浅見敦、志村昭光

多いようである。私たちのクラスは、旧制から新制医学部に切り替わった第一回生で、昭和一桁半ば生まれが多数を占めており、昨年度は10名が日本医師会から米寿の祝いを贈られたという。年齢幅も大きく、数名の人は91歳を越えられたとのことである。また一方では、ここ何年も消息不明のままの3名が気懸りとなっている。

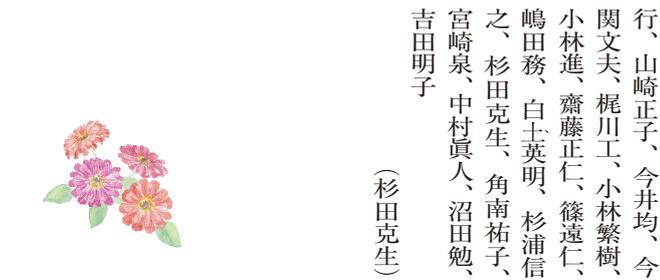
高齢になって出かけるのは益々億劫になってきたが、出てくればやはり楽しいものである。こうして今年も何とか無事に集うことができ、ほっとした感じである。
(藤山嘉信)

ミニ郷士会 (昭54)

5月12日(土) J R千葉駅そばの「レストランえびすや」にて、県立佐原病院長の小林進、千葉県救急医療センター長小林繁樹両先生の退職祝いを名目にミニ郷士会を開催した。昭和48年入学ならびに54年卒業した者の会として郷士会と称している。その非公式会として千葉市周辺の在住、勤務者が不定期に集い、ミニ郷士会を開催している。今

回は国立千葉医療センター院長の杉浦信之君が幹事を務めてくれた。参加者は19名であった。両小林先生の話からは、病院経営、特に財政面や人面での苦労話が披露された。両先生の話には、参加者すべてが学ぶ事が多々あった。当日開催された千葉るのほな同窓会総会にも出席した日本医師会常務理事の石川広己君からは、今後の日本医師会の活動などについて話がかがえた。何憚ることなく語り合えるのも同期の良さであり、楽しい時間は瞬間に過ぎ閉店の時間となった。

参加者・・・石川広己、石毛俊行、山崎正子、今井均、今関文夫、梶川工、小林繁樹、小林進、齋藤正仁、篠遠仁、嶋田務、白土英明、杉浦信之、杉田克生、角南祐子、宮崎泉、中村真人、沼田勉、吉田明子
(杉田克生)



各地るのほな会 開催のお知らせ

茨城るのほな会総会・学術講演会
日時：平成30年10月28日(日)
14:00～16:30
場所：京成ホテル3F「翡翠の間」
教育講演：筑波大学医学医療系
整形外科
國府田 正雄 准教授(平3)
特別講演：千葉大学大学院医学研究院
循環器内科学
小林 欣夫 教授(昭63)



参 旧 会 (昭39)

参旧会は昭和39年卒のクラス会である。崎山樹幹事長のお陰で、卒業以来一年も欠かすことなく続いている。だから今回は53回ということになる。

平成30年5月27日(日)、少し汗ばむ初夏の昼間、東京は日比谷公園内にある「松本楼」にて、会員31名夫人7名、計38名の参加を得て開催された。

今回の幹事役は茨城県在住の鈴木博一、額賀章好、深尾立、万本盛三である。12年前、当時、茨城県精神衛生センター長を務めていた額賀君の肝煎りで、大洗海岸に面した「大洗荘」に宿泊して「名物あんこう鍋」を楽しんでもらったのが、つい昨日のことのようである。ところが、ある専門家からあれは「本物のあんこう鍋」ではないとの指摘を受け、そこで今度こそ「本物」を、との心づもりだったが、残念。いつのまにか、みんな足腰も弱くなり、大洗は遠すぎて行けないということで、昨年と同様「松本楼」に決定。ところが、問題が一つ、それは車椅子用のトイレが無かったことである。そこで深尾

君が松本楼に向き5月の参旧会までに用意するように強談判の結果、問題は解決。当日、受付は川西恭子さんが担当し、みんなを笑顔で迎えてくれたのは有

難かった。定刻の12時には全員集合。鈴木君の司会で開会。亡き友の冥福を祈り、黙祷。乾杯の発声は、昨年の参旧会の直前、急逝した重松



秀一君の夫人である美波さんに頼み、重松君を偲びながら乾杯。また今春、叙勲を受けた大塚嘉則君を大きな拍手で祝った。

次いで、食事をしながら、全員の近況報告。どうしても持病の話が多くなったが、重病を克服し元気になった人の話には傾聴すべきことが多かった。本日は飲み放題ということで最初から多めに盛り上がり賑やかな会になった。

14時30分、額賀君の「不戦の願い」の言葉で閉会。今回は東京在住の山本弘君、中村征一郎君が担当する予定である。

宴会の様子は根岸敬矩君の左の歌からご想像下さい。写真右から
前列・富岡玖夫、鈴木夫人、額賀章好、高根健、本村八恵子、山下明美、川西恭子、大森忠昭、三浦徹蔵、三浦夫人、山本夫人
中列・重松夫人、木内政寛、山口正敏、村上信乃、碓井貞仁、林學、鈴木守、清水天、河野守正、上原朗後列・大塚嘉則、根岸敬矩、万本夫人、高根夫人、遠藤毅、山口夫人、中村征一郎、阿部一憲、鈴木博一、山下武広、山本弘、計見一雄、深尾立、万本盛三 (万本盛三)

平成30年5月27日録
松本楼にバリアフリー化恃みとて今年も集うわれら老頭児車椅子、婦同伴の学友らあつて
松本楼に今年もつどう
マイク手に各自の弁に熱入るも己が持病の愚痴の多しや
前回とほぼ同じメンバー集ひきて
記念撮影に揃い並びぬ
佇めば 日比谷公園広場前
安保闘争のこゑ 幻に聴く
来年も会えるかどうか惻惻と
帰途の電車に一人乗り込む
(根岸ゆきのり詠草)

私達昭和43年卒業のクラス会は、今年卒業後50周年を迎えました。平成30年の節目の年に記念クラス会を開催する事が出来ましたが、入学時には留學生過程が有り、当時はその同級生も含めて計92名のクラス会でした。然し、卒業時には82名に減っておりまして。そしてその後、不幸にして今日を迎えることが出来なかった級友は16名の多きに及んでおります。

卒後50周年記念クラス会(昭43)

その席で同窓会から記念の事務職員も出勤され、私達の記念会に花を添えて頂きました。

今回は記念のクラス会ということもあり、亥鼻キャンパスでの開催が企画されました。新装成った同窓会館での開催は私達のクラス会としては今回が2回目でしたが、殆どの人が新病院の様子がわからないとの事で、その見学会が先に行われました。その後同窓会館に場所を移して、卒業50周年のクラス会が開催されました。同級生の出席者は計45名を数え、例年よりも幾分多くの参加者を迎える事が出来ました。今年も節目のクラス会ということもあり、特別にゐのはな同窓会長の済陽高穂先生(昭45)が出席され、同時に日曜日にもかかわらず同窓会関係

大きな「ゐのはな同窓会基金」と成り、後に続く千葉大学医学部の出身者に対する応援の一助に成れば幸いとの期待感を持って同窓会長にその目録が手渡されたのです。

会の進行は何時も通り、16名の物故者に対して黙祷を捧げ、併せて出席者の健康を改めて祝うと同時に、未長いお付き合いを祈念しつつ開催されました。今回もケータリングを利用しましたが、業者も真心を込めて対応してくれた為、非常に会が盛り上がった事は喜ばしい限りでした。久しぶりに会う顔や、卒後初めて参加するというクラスメイトも居たのですが、不思議なことに直ぐに昔の顔が思い出され、皆、親しく且つ楽しく過ごす事が出来ました。アツと言う間に過ぎた一次会は楽しく且つ有意義な内に過ごす事が出来ましたが、別れを惜しむ出席者は千葉駅に近い海鮮料理屋に場所を移して二次会を開催致しました。そして、毎年会うことを約束して記念クラス会はお開きと成りましたが、参加者の便を考慮して来年は再び東京ステーションホテルでの開催が確認されて記念会に幕が閉じられました。

写真右から

前列：佐藤英樹、青木靖雄、盛克己、清陽高穂（同窓会長・昭45）、神津玲子、鳥居雅江、林雅恵（藤塚万里子さんの遺影と共に）、和泉佳子、舟橋満寿子、竜崇正、ヨン・セーシン（楊思勝）、栗山喬之、川村健児、玉井輝章
 二列目：北原宏、唐澤祥人、蘭部友良、古山信明、鳥居敏明、中嶋弘道、滝川弘志、諏訪敏一、國保能彦、松清央、飯田秀治、赤井壽紀、保坂忠成、田中寿一、鈴木昭一、一瀬正治、久野宗寛、矢島寿夫
 三列目：千葉彌幸、赤尾建夫、長谷川洋機、河村浩一、和田源司、パンロップ・チャワルニッチ、太田東吾、東紘一郎、星野聡、鈴木秀、佐野元昭、藤塚光慶、プラサート（留学生過程出身）、中村宏、梶尾高根

（中村宏）



昭和43年卒業生による卒後50周年基金創設

「卒後50周年基金」の設置が平成29年11月16日の理事会において決定され、申し合わせ（左記）がなされました。この度、本基金の趣旨に賛同された昭和43年卒業の先生方御一同より、基金へのご寄贈の申し出があり、基金創設の運びとなりました。左記に昭和43年卒業の先生方の御趣旨を引用させて頂き、同窓会を代表して感謝の意を表したいと思います。

総務担当理事 白澤 浩（昭57）

「千葉大学医学部卒業50周年基金の創設に向けて」

昭和43年（1968）卒業生一同

昭和43年（1968）千葉大学医学部卒業の我々が現在もお、医師としての仕事をもとに、社会活動の継続が出来ていることは、医学教育を受けた母校に対して感謝の念と誇りと、キャンパスの記憶が蘇ります。その感謝の気持ちを表すのに卒後半世紀を過ぎた我々が、何か貢献出来ることはないか、貢献したいと考えました。医籍登録は更新を必要としない、国家が認めた国家財産であり、その仕事が50年続けてこられたこと、これからも続けられることは素晴らしい、また、大切なことと思います。

現在、医師を目指す医学部在校生、指導教官の皆さんが日夜一生懸命頑張っている、その後輩、母校の為に、卒業50年を迎えることが出来たことを節目として、我々シニアOB、OGに寄付を仰ぎ、集まったものを基金として、少しでも役に立てるサポートをしたいと考えました。

今後50周年を迎える後続学年の方達も同じように意志を継承してくれることを確信して、ゐのはな同窓会に卒後50周年基金創設をお願い致します。

卒後50周年基金申合せ

1. 千葉大学ゐのはな同窓会は、平成29年（2017年）より「卒後50周年基金」を創設する。
2. 本基金は、ゐのはな同窓会の発展に寄与する目的に用いるものとする。
3. 本基金は、会則第29条に定める本会の基本財産として運用する。
4. 本基金の管理・運用は、理事会が別途に定める会計規則により財産管理を行うものとする（会則第30条）。

平成29年11月16日 理事会決定

研修プログラム

千葉県こども病院

病院長・千葉大学医学部臨床教授

星岡 明(昭58)

千葉県こども病院は、千葉県に6つある県立病院の1つであり、全国に15ある独立型小児専門医療施設(いわゆるこども病院)の1



浦特別支援学校、独立行政法人国立病院機構下総精神神経センターのすぐ隣です。現在は、ICU9床、NICU9床、GCU15床、無菌室3床を含む24の病室と、内科系11科、外科系10科、中央診療部門6科、周産期センター2科の合計29科の診療科を有し、約90名の医師、約340名の看護師など約570名の職員で、県内の小児医療の最後の砦として、専門医療、二次三次の救急医療を担当しています。年間の手術は約2000件、救急車受入は約1000件です。

【医師臨床研修】

当院は基幹型臨床研修病院ではありません。協力型臨床研修病院として、千葉県立病院群卒後臨床研修プログラム(基幹型臨床研修病院は千葉県がんセンター)、千葉大学医学部附属病院卒後臨床研修プログラム、国立病院機構千葉医療センター医師臨床研修プログラム、千葉中央メディカルセンター臨床研修プログラムなどの臨床研修医の教育を担当しています。受入れ診療科は、小児科(小児救急総合診療科、内分泌科、感染症科、アレルギー・膠原病科、代謝科、循環器科、血液・腫瘍科、神経科、腎

臓科、新生児・未熟児科が分担して担当)、小児外科、耳鼻咽喉科です。2015年度10名、2016年度7名、2017年度9名の初期臨床研修医を受け入れました。2018年度は14名の受入れを予定しています。2020年度から小児科が必修分野となることが決まりましたので、多くの臨床研修医に来ていただくことになると思います。なお、当院は専門医療を主としておりますが、時間内、時間外に関わらず、千葉市近隣および山武長生夷隅地区、市原地区などからの入院依頼も多く、一般的な小児患者の診療も十分に経験できます。

【後期研修】

日本専門医機構による新専門医制度において、小児科の基幹施設として承認されています。2018年4月に研修を開始した専攻医は2名です。「千葉県こども病院小児科専攻医研修プログラム」は小児科専門医資格の取得というゴールだけでなく、小児総合医療施設である千葉県こども病院の特性を生かし以下の点を達成できることを重視しています。

①小児医療のすべての領域を不足なく学ぶこと

②高度の専門診療の実際を経験すること
③多職種連携による全人的医療に実践できる能力を身につけること
④地域連携を円滑におこなうための能力を身につけること

4点です。トータル3年間の研修プログラムは修得技能の段階を考慮して、第1期(14か月)、第2期(16か月)、第3期(6か月)と分けていますが、第3期は基本的に自由選択で、興味を持った分野を再度研修することにも、連携施設(千葉市立海浜病院、総合病院国保旭中央病院、船橋市立医療センター)において一般小児科診療を主とした研修を組み合わせることも可能です。第1期は、小児内科系診療科7科(感染症科、代謝科、内分泌科、腎臓科、アレルギー・膠原病科、循環器科、神経科)の2か月単位のローテーション、第2期は、内科系診療科2科(血液・腫瘍科、小児救急総合診療科)の4か月単位のローテーション、新生児・未熟児科研修の6か月間、集中治療科研修の2か月間の構成としています。千葉県立病院群レジデント制度では専門医試験受験の

年度である4年目までのレジデント在籍が可能です。また、サブスペシャルティ研修に継続することもできます。小児科以外の基本領域では、精神科、外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、脳神経外科、麻酔科、形成外科、病理科で千葉大学附属病院を基幹とするプログラムなどで連携施設として研修医を受け入れています。

【サブスペシャルティ研修など】

当院には各領域の専門医、指導医が多く在籍しており、また症例も豊富ですので、小児科専門研修を修了したのちに、各領域の専門医取得を目指したサブスペシャルティ研修が可能です。内分泌代謝科専門医、感染症専門医、小児神経専門医、アレルギー専門医、リウマチ専門医、小児循環器専門医、小児血液・がん専門医、腎臓専門医の研修施設認定を受けており、各レジデントコースを設けています。

最後に当院在籍ののほな同窓会員を紹介します。病院長：星岡明(昭58) 副病院長：伊藤千秋(昭55) 技監：青墳裕之(昭55) 医療局長：中島弘道(昭58) 診療部長：皆川真規(平元)、仲野敦子(平2) 感染症科：星野直(京都府立大・平8)、深沢千絵(平11) 代謝科：村山圭(秋田大・平9)、松永綾子(宮崎医大・平15) 内分泌科：数川逸郎(山形大・平8) 血液・腫瘍科：角田治美(昭60)、落合秀匡(平9) 腎臓科：安部昌宏(平24) アレルギー・膠原病科：富板美奈子(平元)、山出晶子(筑波大・平10)、山本健(平20) 循環器科：東浩二(平9) 神経科：小俣卓(信州大・平7) 小児救急総合診療科：伊藤絢(平16)、酒井敦(平25) 新生児・未熟児科：鶴岡智子(平14) 精神科：安藤咲穂(平元) 小児外科：光永哲也(筑波大・平11)、大野幸恵(平17)、文田貴志(平

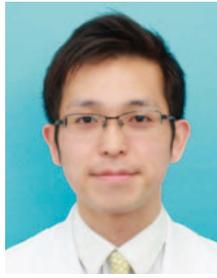
26) 工藤渉(平26)、岩井潤(昭53) 整形外科・西須孝(平元)、柿崎潤(平13) 脳神経外科・沼田理(平9) 眼科・平野香織(平12) 耳鼻咽喉科・有本友季(平8) 形成外科・鈴木啓之(昭61)、石垣達也(平18) 泌尿器科・本間澄恵(平6)、松野大輔(平13) 心臓血管外科・青木満(昭58) 歯科・渡邊俊英(北大) 歯・平4) 麻酔科・安部大地(平26)

研修医だより

人から頼られる存在に

千葉大学医学部附属病院 総合診療科

飯野 貴明(平27)



私は2015年に千葉大学を卒業し、現在は千葉大学医学部附属病院で総合診療科医として勤務しております。後期研修の様子と、先輩に向けた臨床体験をお伝えできればと思います。

さて、皆様はどういったときに仕事にやりがいを感じるでしょうか。後期研修の様子をお話ししながら私の話をさせていただければと思います。

総合診療科では『問診で9割の疾患を特定する』を

出し、診断に迫られた際にやりがいを感じます。ここからは、先輩に向けた研修体験についてお話しします。私は昨年度、精神面の不調により休職しておりました。「自分はまだ医師として駆け出しの時期だから、患者さんのために精一杯頑張ろう」と言い聞かせ、無理をしたことが原因だと考えています。ミスが多くなってきたこと、精神的に辛いことを当時の上司に相談したところ、すぐに休養の手配をしていただきました。休職してからはたくさんの人に支えてもらっていることに気づき、時間をかけて自分のやりたいことに向き合い、環境を変えて現在に至ります。おそろくこの通信を読んでいる方々は学業や診療に日々尽力されている方々と推察いたします。『自分を大切にすること』を忘れないでいただけたら幸いです。

千葉大学での学生生活、勤務を通してたくさんの方々と話す機会をいただきました。皆様との出会いで今の自分があると思っております。今後は総合診療科医として人から頼られる存在になれるよう研鑽を積んでいきたいと考えております。

会員から

欧州医学史巡り ―レンネップ―

杉田 克生(昭54)



ドイツレントゲン博物館：左がエントランスで、博物館は右の館から後方の新館に続く

レントゲンが生まれたレンネップ(1929年レムシャイト市に合併された)は、ケルン中央駅から列車で1時間ほどの所にある。刃物で有名なゾーリンゲン中央駅で乗り換え、2両のローカル線に乗りレムシャイト・レンネップ駅で下車する。駅からレントゲン博物館には、大通り(Kölnstrasse)をゆっくり歩いて15分くらいで着

ける。

レントゲン博物館の正式名は「Deutsches Röntgen Museum」と称する(写真)。レムシャイト市はレントゲンの偉業を記念すべく、貴族オーベルマン家の館を博物館として、1972年に公開した。旧館には、レントゲンにちなむ家具、写真、学位記、賞状、メダル類、辞令、愛用品、登山用器、登山用品などが展示されている。開館当初はX線発生装置や付属機器が時代順に置かれていた。その後X線CTやX線解析装置など大型機器が開発され、それらの展示スペース拡張のため新館

増築工事が行われた。放射線教育の観点からは、X線発見直後からの美容・健康などへの誤った「X線便乗商品」や、それに伴う放射線障害の事例などが一般市民向けに解説展示されている。

なおレントゲンの生家は、この博物館から歩いて数分の所にある。レントゲンは1845年裕福な家庭に一人っ子として生まれた。博物館での解説パンフレットでは「enjoyed a stress-free childhood」とある。世界で抜きん出た実験物理学者、後に「a master of the art of experiment」と称される人間の生い立ちである。

パンフレットには、「レントゲンは研究のall-rounderであり、成功した研究者誰もが備えている特性すなわち好奇心(curiosity)、自制心(discipline)ならびに持続力(persistence)を保持していた」とある。良き研究者を育むためには、子ども時代のストレスなき環境が絶対条件ではなきにしても、必要条件ではあろう。レントゲンに関心のある方は是非この地の訪問をお勧めする。

Human Chemistry, Human Solutions **TEIJIN**

帝人ファーマ株式会社

追 悼

故 高見澤 裕吉先生を偲んで

岩 崎 秀 昭 (昭51)



高見澤裕吉先生(千葉大名譽教授)が平成30年4月3日ご逝去されました。謹

んで哀悼の意を表します。葬儀は家族にて執り行われ、お別れの会が去る5月20日京成ホテルミラマールにて開催されました。多数の先生の参加をいただき感謝しております。産婦人科同窓会と先生がこよなく愛したテニスの会との合同で

生前の先生を偲んで厳肅かつ和やかに行われました。先生は昭和49年に若くして産婦人科教授になられ、平成5年3月に退官されるまで長期間にわたり千葉大学産婦人科を牽引されました。その間の業績は多数あり、産婦人科の業績だけでなく、産婦人科医師の育成にも、また医学部の学生の教育にも尽力されました。今回お別れの会の開催にあたり略歴、著書、学会開催、公職などを検索すると膨大な内容となり、あらためて

先生の偉大さを認識いたしました。先生の業績の一つに、全国規模の大きな学会として、平成3年の第32回日本臨床細胞学会、平成4年の第44回日本産科婦人科学会があります。とくに後者は産婦人科では最大の学会で、全国に千葉大学の力をお見せできたのではないかと思います。この学会は4月4日から4日間で開催され、先生は学会開催後26年経過の前日お亡くなりになったことになりました。

また平成18年には叙勲(瑞宝中綬章)されております。その前に奥様も叙勲されておられ、先生は心より喜んでいらつしやいました。先生は退官されてからも体は元気で、いくつかの病院で外来、手術、時に大学での授業をされ精力的に仕事をされていきました。また学会にも参加され新たな知識を吸収されていきました。いつも背筋を伸ばしてさっそうと歩き、周囲の方々への気配りをされ、人生の師として尊敬すると共に、

我々の医師としてあるべき姿を教えてくださいました。先生から「疲れた」、「時間がなかった」などの語句を聞いたことがありません。また過去の仕事を振り返るのではなく、「いつも前をむいて次のことを考えろ」との言葉をいただきました。先生からいただいたこの言葉を忘れません。先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

高見澤先生の 冥福をお祈り申し上げます

青 木 謹 (昭36)

高見澤先生、永い間ありがとうございました。

昭和36年3月卒業の私のクラスに、先生が「生命の誕生の素晴らしさを扱う産婦人科の魅力」を話しに来てくださった時の事が、昨日の様に想い出されます。

私が千葉大学産婦人科教室に入局したときは御園生雄三教授が、日本産婦人科学会(以下日産婦と略称)からの宿題報告を控えて「子宮頸癌の組織化学的研究」が主流でした。その中

にあつて、高見澤グループが翌年出来、工藤純孝(昭35)、青木謹(昭36)、矢島清司(昭37)の3人がグループのメンバーでした。高見澤先生は、それまでの絨毛上皮腫の研究が評価されて、昭和38年日産婦臨床大会で初めてシンポジウムとして「絨毛上皮腫の免疫」を発表されました。その発表を聞き、会場での評価を知り、当時の千葉大学産婦人科同窓会長小林金市先生(昭8)が素晴らし

い発表だったと激賞されておられました。そしてその発表の学会での評価も高く絨毛上皮腫関連のシンポジストや委嘱講演が何回も続きました。法医学木村康先生(昭24・当時助教)のアドバイスを戴きながら私自身も高見澤、木村両先生のご指導により試験管を操作しておりましたので、喜びは格別で忘れることはできません。その発表の絶大な高評価は絨毛上皮腫関連のシンポジウムや委嘱講演が続き「絨毛がんの高見澤」の評価を確実なものにされました。そして、日産婦学会長、日本臨床細胞学会会長、全国医学部長病院長会議副

会長、国立大病院長会議常置委員長を歴任された事などで、平成18年に瑞宝中綬章を受章されました。講師時代は工藤純孝先生、教授時代は稲葉憲之先生(昭47・前獨協医科大学長)という優秀な人達にも恵まれておりました。一方、先生の手術は素晴らしく、産婦人科手術では最も難しい子宮癌手術(子宮広汎全摘術)の手術時間の短さ、手際良さは、天下一品でした。講師時代、京都大学産婦人科西村教授の手術見学に手術台の近くまで入り見学された事など、その研究熱心には頭の下がる想いが致しました(工藤先生、私も同道しました)。

また、先生は、開業医関連病院への出張と違い、公立病院の給料の安い所への出張希望者が少ないのに対して、地域医療の大切さ、手術の多さなどを指摘し、私や高根健先生(昭39)を口説き東北の公立病院に赴任させました。そして手術の指導にきて下さる事もしばしばでした。そのお陰で手術に自信が持てるようになり、開業への自信もついできました。その御指導への感謝の気持ちを込めて10年位前より高根健先生と二人で年一回先生と会食し、謝恩の宴とさせていただきます。然し、最近一、二年は奥様のご不幸、先生の入院等の為、出来ないでい

たのが残念でなりません。また、胞状奇胎から絨毛上皮腫となり、50年前に先生に子宮全摘術を受けた丸山町在住のKさんが90歳を超えた現在も元気である事を毎年報告しておりますが、今年もその報告が出来なかったことが残念でなりません。先生のご冥福をお祈り申し上げます。



医療従事者向け生命保険・損害保険のご用命は・・・ 千葉大学ものはな同窓会「会員総合補償制度」担当

PIONEER 株式会社パイオニア

Tel. 0475-23-8442 (営業時間 8:30-18:00)



医療従事者が検討すべき 保険って医師賠償だけ?

詳しくは弊社ホームページにて

http://www.pioneerltd.com/

故有水昇教授を偲んで

油井 信春 (昭37)



平成30年4月5日に千葉大学名誉教授、放射線医学教室二代目教授であった有水昇先生が89歳で亡くなられました。謹んで哀悼の意を表します。

先生は昭和30年(1955年)設立早々の放射線医学教室に、大学院生としてただ一人だけ入局されました。まだ将来にどのような志を抱いていたか後輩の私を知る由もありません。ただ聡明な先生は必ずや放射線医学の時代が来ることを的確に予想されて決断したに違いありません。東大から赴任された寛弘毅初代教授のもとにゼロからスタートした教室の真正正銘の第一号の入局者でした。

による研究も多数ありましたが謙虚な先生は成果を誇示することには控えめだったと思います。

仕事でした。欧米の文献以外は全く参考資料もない時代で大変な苦労があったと思われまます。しかし先生は見事に苦難の時代を乗り切りました。先進的な構想をしっかりと受け止めて実現に力尽くしました。

私が8年遅れて昭和38年に入局した時代には有水先生は講師で医局長として教室を内側からしっかりと支えていました。教室は核医学を柱としながら放射線治療を主体とした診療も確固として揺るぎないものとなっていました。

有水先生に就いて入局した教室員はみな臨床も研究も全面的に先生の指導を受けました。寛教授からは全幅の信頼を得ており教室員は完全に頼り切っていました。それだけに中間管理職として毎日が八面六臂の忙しさで何時寝るのか心配になるほどでした。温厚な先生は声を荒らげて叱ることはなかったのですが指導は厳しく手抜きや誤魔化しは決して見逃しませんでした。そして多忙な指導の傍ら自らの断層シンチグラムなどのアイデア

また核磁気共鳴医学会を立ち上げるなど診断、治療の全分野に亘って目覚ましい発展を成し遂げられました。特筆すべきは放射線科として全国でも珍しい100人もの入室者を集め優れた人材を育て送り出して日本の放射線医学界に貢献されたことでした。教室員はそれぞれが目指す分野で自由に学ぶことができました。先生の包容力のある人柄が多

そのものであります。先生のご冥福を心よりお祈りします。

畏友 塚原重雄兄を偲んで

青木 謹 (昭36)



昨年(平成29年)12月6日 塚原重雄氏夫人から彼の訃報(12月5日逝去)が届き動転しました。いつも山梨の果物を送ってくれるのに対し、こちらの海産物を送った御礼の電話が12月

2日にあつて話をしたばかりだったからです。聞けば奥さんが外出中、庭先の芝生の上ですべて転倒し打ち所が悪く(頸椎骨折)亡くなられたとの事でした。千葉大学の同級生として昭和30年の入学組ですから60年を超えるつきあいだった事になります。医進課程を終え(我々のクラスから専門課程進学の試験が撤廃された)、専門課程(3

年生)に進級する時に諏訪清陵高出身の塚原君と山形東高出身の今野昭義君の所属する卓球部に入学しました。東京出身の多い級友の中で田舎(千葉県南部)出身である私にとってこの二人にはひかれるものがあったからです。やはり、その時の我が目にくるいはなく今迄の永い我が人生に素晴らしい彩りを添えてくれました。学生時代の思い出は消えることはありません。

卓球部時代、責任学年になった時は、主将今野昭義(千葉大学耳鼻科名誉教授)、副主将塚原重雄、主務庄司(旧姓) 謹となり、交友関係が深まりました。学生時代に何回か招かれて上諏訪の実家に遊びに行きました。慈愛あふれるご両親(父上は東京大病院眼科より諏訪日赤に派遣されていた)にお逢いし、初物づくしでした。家庭にひかれて温泉水の湯に入浴し、結水した諏訪湖の水上でスケート靴をはき(立つ事も出来ませんでした)、霧ヶ峯でのスキも初体験(といっても直滑降がやつと短くできた程度)でした。

卒業してからも何回も行き来はしておりますが、平成14年1月20日山梨医科大学眼科学講座開講20周年記念祝賀会に招かれた時、彼は病院長でしたが、カルフォルニア大学から客員教授の称号を授与されておりました。

先生のご冥福をお祈り申し上げます。

先生のご冥福をお祈り申し上げます。

昭和10年10月10日生まれ
36年千葉大学医学部卒業
37年東京大学医学部眼科入局
39年東京大学医学部眼科助手
44年マンチェスター王立眼科病院に留学
45年ペンシルベニア大学に

内藤 威先生を偲んで

長野県立信州医療センター副院長 清水 俊行 (昭56)



信州のなはな会前会長内藤威先生が平成30年4月10日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を捧げます。先生は昭和20年10月、疎開先の群馬県万場町で生を受け、都立青山高等学校を経て昭和48年千葉大学医学部を卒業されました。卒業後は、千葉大学医学部産婦人科教室で研修を積ま

留学
46年東京大学医学部講師
49年信州大学医学部助教
53年諏訪赤十字病院眼科部長
57年山梨医大医学部教授
平成
3年眼薬理学会総会長
7年日本緑内障学会総会長
10年山梨医大副学長・病院長(平成14年9月迄)
13年日本眼科学会監事
14年山梨医大名誉教授
16年山梨大学常任理事
21年塚原眼科医院名誉院長

病院長に就任され、平成23年ご退職後も顧問として後進の指導に当たられ、30年にわたり須坂病院の発展に尽力されました。

先生は早くから千葉大学医学部同窓会支部「信州のはな会」の役員として会を支え、平成24年には会長を引き継がれましたが、その年風邪をこじらせ、肺の難病と診断され、通院と入院を繰り返す療養生活にはいられました。

入院中病室に何うと「シミちゃん(私のこと)、入院は暇だから一週間競馬の子想ができるけど、考えすぎて馬券がちっとも当たらない」と嘆いておられました。私は平成6年須坂病院赴任直後より、先生が主宰する「アナの会」で薫陶を受け、以来二十数年間先生を師匠とあがめてまいりました。先生は天才的博才をお持ちで、しばしば爆発的な大万馬券で私たち後輩をビックリさせました。

また、先生は大変な読書家でもありました。ある日これ面白いからと浅田次郎作「競馬どんぶり」「競馬の達人」を貸してくれました。当時浅田次郎が著名な作家と知らない私は、その流麗な文章に「この人将来

作家になれるね」と妻に話し大笑いされたことを思い出します。その後、彼の作品を先生と読み漁ったのが昨日の様です。

桜咲く4月、季節外れの雪が降りました。先生は急に呼吸が苦しくなり信州医療センターICUに入院されました。息苦しいにもかかわらず心配で面会に来た

雑文雑談

街の風景

石出猛史(昭52)

仲間には笑顔で接していただきました。最後に握ってくれた先生の手は暖かくやわらかでした。4月10日2時48分最愛の奥様に看取られ永遠の眠りにつかれました。

長い間本当にありがとうございました。どうぞ安らかにお休みください。

正月 現在の家に越して最初の正月二日、2階の窓から下の通りを眺めていると、人物1・下手から旅行カバンを脇に抱えた男が上手に向かって走って行く。人物2・下手から車が走ってきて男を追い越すと、県道とぶつかる辺りで停車して男が一人降りてきた。戻ってくる人物1と話をし、下手に走って行った。

人物3・下手から男が自転車疾走して来る。人物1を追い越して自転車から降りると、自転車を横向きにして人物1の行く手を塞ぐ。人物2・4・5・下手から男たちがバタバタと走ってきて人物1を取り囲

して弁当に手をかける。若者B「おまえは本当にそれが食べたいのか。」若者A「……いや……」若者B「食べたいわけでもないのに値引きにつられて買おうとする、そういうのを安物買いの銭失いというんだ。」若者Aは渋々手を引く。

スーパーの総菜売り場で2夕方のサラリーマン風の男性が値引きした弁当に手を伸ばす。隣に立っていた客の老女が男性の袖を引っ張って「待ちなさいよ、じきに半値になるんだから。」男性少し躊躇してから弁当を戻す。

夕方の内房線で 通勤客で適度に混んでいた。ボックス席に座って本を読んでいると、途中の駅で今時珍しい初々しいという感じの高校生位の女の子が二人乗ってきた。私服姿なので、この駅を最寄駅とする福祉系の大学の新生生なのかもしれない。少女A「佐倉に成田だつて。」電車の路線図を見ているようだ。少女B「ナメガワだつて、アタシここ知ってる。海の近くなんだよね。」(成田方面の路線図なら滑川(下総町)ではなくるか。ここなら海ではなくて利根川の

近くで、海の近くなら行川(勝浦市)であろう。少女A「神田外国語大学だつて。」今度は広告を見ているようだ。少女A「幕張にあるのに何で神田なんだろう。……アーツさうだ、きつと神田さんという人が創ったんだ。」少女B「そうだよ、きつとさうだよ。」(それは東京の内神田にある神田外語学院の姉妹校としてできたからです。たぶん神田さんとは関係がないでしょう。)電車は一路千葉駅に向かう。

「ハーツ」筆者(……)店主「ある時ふりのお客が来て親父に刈って欲しいというので、親父がやったんですがね、色々話をしていたみたいだけれど。そのお客税務署の人だったんですよ。給料を出していることになつてはいるのに、たまにしか仕事をしていないというのがばれちゃつて。」客「脱税がばれちゃつたんだ。」筆者(……)

午後私鉄の車内で 丁度高校生の下校時間におつかった。一人おいて向こうに小学校四年生位のブックリとした男の子が座つて一生懸命ドリルを解いていた。電車が駅に着くと地元の高立高校の生徒が四、五人乗ってきた。一人だけ座席に座れなかった生徒が男の子の前に立つと両手で

「ハーツ」筆者(……)店主「ある時ふりのお客が来て親父に刈って欲しいというので、親父がやったんですがね、色々話をしていたみたいだけれど。そのお客税務署の人だったんですよ。給料を出していることになつてはいるのに、たまにしか仕事をしていないというのがばれちゃつて。」客「脱税がばれちゃつたんだ。」筆者(……)

の路線はカーブが多いこと有名で、件の高校生は電車が大きく揺れる度に男の子の上に覆い被さった。二、三度繰り返されると、男の子はサッと立ち上がり、再びドリルを解き始めた。高校生は友達から「お前が悪いんだ。」と咎められ、男の子に「座つていいんだよ。」と声をかけるが、男の子は「いいよ、いいよ。」と言つて取り合わずにドリルを続ける。降車駅に着くとサッサと降りていった。臨機応変に危機に対応できる子である。高校生の方は四十年後もボンクラであるが、男の子の四十年後は見てみたい気がする。

慢性疼痛でお悩みの方、認知行動療法の臨床試験に参加しませんか?



インターネットを使って、ご自宅で認知行動療法を行います。遠方でも参加可能です。詳しくは、お気軽にお問い合わせください。平日10:00~16:00

info-chibacbt@chiba-u.jp または「千葉大 疼痛 認知行動療法」で検索
募集期間 2018年4月1日~11月30日
千葉大学附属病院 認知行動療法センター
☎043-222-7171 (代表) 内線72546
子どものこころの発達教育研究センター
代表:清水栄司 担当:田口佳代子 (厚労科研究費難治性疾患政策研究事業)

学内情報

あのはな同窓会支援 第11回ちばBCRC

最優秀賞を受賞して

医学部5年 菅原 ゆたか



この度第11回ちばBCRC (Basic & Clinical Research Conference) で最優秀賞をいただきましたこと、誠に感謝申し上げます。本研究「メトトレキサート(MTX)標的遺伝子の網羅的探索」は、CD4陽性T細胞においてMTX治療のみ特異的に変動する遺伝子を抽出しMTXの標的となりうる分子を同定すること、またげっ歯類を用いた病態モデルの解析を通して標的遺伝子の疾患における役割を説明することを目的として行っており、まず、研究実施にあたり一からご指導をいただきました、アレルギー臨床免疫学教室中島裕史教授、須藤明先生をはじめ教室員の皆さん

究成果を共有することで学生が交流できる絶好の機会でした。自分が普段触れることのない分野での、自分と同じ学生が行った研究の発表を聴き議論を行うことはとても良い刺激になった

学長表彰制度

平成29年度 医学部受賞者

成績優秀賞

矢田部玲子 (医6)

課外活動賞

山岸 航介 (医6)

人命救助

(会報176号に掲載)

学術研究活動賞

金丸 ゆり (医6)

藤本 一志 (医6)

青山 辰次 (医5)

伊豆永晃子 (医5)

神田 珠莉 (医6)

塩谷 優 (医5)

坪坂 歩 (医5)

廣川 友美 (医5)

磯部 琴絵 (医4)

小山玄太郎 (医4)

平井健太郎 (医4)

(平成30年3月現在)

*青山辰次さん、小山玄太郎さんは、学術研究学生支援制度による支援の対象。

【成績優秀賞】

平成12年度から優秀な学生の勉学に対する意欲を高めることを目的として設けられました。

と感じております。今後は同定された遺伝子の機序をさらに詳しく解明するべく実験を続けて参ります。この度は誠にありがとうございます。

【課外活動賞】

平成6年度から課外活動

や人命救助等、またはボランティア活動において優れた成績を収め、又は評価を受け、本学の名誉を著しく高めたと認められる学生を表彰しています。

【学術研究活動賞】

平成22年度から本学に在籍する学部学生で、本学の理念「つねに、より高きものをめざして」に基づき、

正課教育の一環として学問的業績を挙げたことが学会等で評価され、あるいは学術研究活動においてその成果が社会的に評価されているものを表彰することとしました。表彰式は、教育担当理事等同席の下、随時行っています。

また、受賞した学生のなかから各年度末に千葉大学学術研究学生支援制度による選考を行い、対象者には奨学金として50万円を支給し、併せて授与式を行います。(千葉大学ホームページより)

第3回 Home coming party 2018.

「ホームカミング・パーティ 2018.」が開催されます。

2016年・2017年に引き続き、2018年11月4日(日)午後3時より、亥鼻祭開催当日と合わせて「ホームカミング・パーティ 2018.」をあのはな同窓会館にて開催します。

昨年度も、白澤浩先生(昭和57年卒)のお声がけのもと、徳久剛史学長(昭和48年卒)、済陽高穂先生(昭和45年卒)、吉原俊雄先生(昭和53年卒)からのご祝辞を頂き、同窓会員・医学部学生など140名を超える参加者を得て盛会となりました。さらにハーバード大学公衆衛生大学院に留学した中西恵さん(医学部4年)や亥鼻実行委員長の上條恵莉子さん(医学部4年)からのプレゼンテーションもあり、会に若手の勢いを感じさせました。

本年も、医学部生や若手医師からのショート・プレゼンテーションを予定し、当日は託児所も設けますので家族連れの同窓会員も安心してご参加頂けます。参加費は無料ですが、お飲み物の差し入れは大歓迎いたします。年々参加者が増え、勢いのある本企画にぜひお越しください。皆様のご参加をお待ちしております!

- 吉村 健佑 (平19)
- 三澤 園子 (平11)
- 鋪野 紀好 (平20)



あのはな同窓会館



2017年ホームカミングパーティ

主催:千葉大学あのはな同窓会、後援:千葉県あのはな会・東京あのはな会

日時: 2018年11月4日(日) 15:00-

場所: あのはな同窓会館

参加費: 無料(差し入れ大歓迎)

あのはな同窓会に縁のある方はどなたでもご参加頂けます
なつかしい友人・先輩に逢えるかも...是非お誘い合わせの上お越しください
軽食・飲み物のご用意があります

連絡先: Home coming party 事務局 chiba.inohana@gmail.com
担当: 吉村健佑 (平19)

第16回 亥鼻祭開催のお知らせ

亥鼻祭実行委員サークル実行委員長

医学部3年 國富美由
福島 剛

本年度の亥鼻祭は11月4日(日)に開催される運びとなりました。亥鼻祭とは、千葉大学亥鼻キャンパスにて行われる医療系大学祭で、医学部、看護学部、薬学部、理学部が協同して実施しております。

存続の危機とまで言われていた亥鼻祭は、昨年度立ち上げられた亥鼻祭実行委員サークルによって息を吹き返しました。これまでの伝統や昨年度新たに行われた試みを受け継ぐのみならず、外部への発信の強化、来場者数のさらなる増加を目標とし、学生へのアピールも増やし活気ある亥鼻祭を作り上げていきたいと思っております。

本年度は、昨年度同様、外部からの講演者やお笑い芸人さんなどを招待し、文化祭を明るく盛り上げます。また、各学年による学年企画や医療系学部ならではの医療に関するブース展示も行う予定です。医療系大学祭であるという特徴

を生かし、他の大学祭にはできない様々な切り口から医療に向き合い、来てくださった方に少しでも医療の魅力を感じていただける学園祭を目標にしていきたいと思えます。是非当日はご来場いただき、新たな歴史への道をたどり始めた亥鼻祭をご覧になってください。

さらに、昨年度に引き続き「ホームカミングデー」も開催される予定です。亥鼻祭当日に同窓会館にて行われる予定です。是非お気軽に母校を訪れ、亥鼻祭のイベントにもお立ち寄りいただければ幸いです。

これまで15年間にわたって亥鼻祭が開催できましたのも、同窓会の方々をはじめ、地域の方々や保護者の方々のご支援、ご協力のおかげです。この場をお借りして謹んで御礼申し上げます。支えてくださっている多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、亥鼻祭まで学生一同、誠心誠意頑張ります。本年度も皆様と共に亥

鼻祭を盛り上げたいと思います。皆様のご来場を心よ

りお待ちしております。

課外活動団体だより

General Medicine Interest Group

医学部6年 渡邊良太

General Medicine Interest Group (GMIG) は、2017年4月に発足した医学部5・6年生を主体とした身体診察能力の向上を目指すサークルです。GMIGが設立された背景として、臨床実習



第3期 General Medicine Interest Group のメンバー

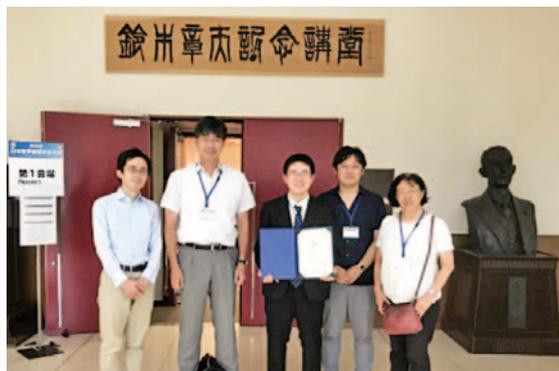
で適切な身体診察を実施するスキルを身につけるための系統だった学習機会が欲しいという学生からの強いニーズがありました。そこで、GMIGでは、臨床実習で自信を持つて身体診察を実践できるようにすることを目的に活動しています。また、身体診察を症候に合わせて適切に選択し、かつ正確に遂行できるような能力向上に日々努めております。GMIGの顧問に

は生坂政臣先生(千葉大学医学部附属病院総合診療科教授)、副顧問には伊藤彰一先生(千葉大学医学部医学教育研究室講師)にご担当頂いています。勉強会では鋪野紀好先生(千葉大学医学部附属病院総合診療科/総合医療教育研修センター特任助教)を始めとする先生方からご支援を受けて、6ヶ月を1クールとして月に2回活動しています。1クールの参加学生の人数は18名で、これまでに54名の学生が参加しています。

勉強会の内容としては、頭痛・腹痛・関節痛といった症候別に、必要となる身体診察に関する動画やテキストが事前に配信されます。参加者は予習した上で実習へ参加し、勉強会ではその知識を実践する反転授業の形式を採用しています。身体診察手技自体のスキル向上も重要ですが、病歴から想起された疾患にフォーカスした身体診察を実践するための練習も行っています。少人数制を採用しているので先生方から細かい指導が受けられる点、講義では単に知識を得るのではなく、「知識を活用する方法」を学ぶことで実践に活用できるスキルが獲得

できるのも特徴です。また、過去の受講生が模擬患者を担当するピア・ティーチングを行なっています。これは双方にとって学びを深める機会になっています。

サークルに所属する学生からは、GMIGに参加した事で「身体診察に自信を持つようになった」「臨床実習や臨床研修で活かす事ができた」等の声が多数上がっており、今後も継続して自分達の身体診察能力のスキルアップを目指したいと思えます。また、本誌や日本医学教育学会大会等で活動報告をさせて頂き、GMIGの活動内容を広めて行く事が次のステップです。今後とも、General



第50回日本医学教育学会大会 (2018.8.4) 学生セッションで、General Medicine Interest Group (GMIG) を代表して三浦彩人さんがGMIGのサークル活動の報告を行い優秀賞を受賞しました。

優勝

第61回東日本医科学生総合体育大会 (夏期)

ヨット部 団体男女合同

2018年8月5日(日)

サッカー部

2018年8月9日(木)

群馬大学 0-3 千葉大学

役員
部長 渡邊良太
副部長 三浦彩人

General Medicine Interest Group
を宜しくお願いいたします。

亥鼻ジャズ研究会

医学部2年 木戸 雄 介

亥鼻ジャズ研究会は2017年に設立されたばかりの新しいサークルです。現在、医学部16名、薬学部3名の計19名で活動しています。ジャズ研というと、どの大学にもあつて歴史の長いサークルというイメージですが、千葉大学亥鼻キャンパスには長らく存在していませんでした。大学に入ってからジャズをやってみたいという人達が多いうるという現状を踏まえ、亥鼻ジャズ研究会は設立されました。ジャズをはじめとする様々な音楽に興



亥鼻祭に向けて練習中

味のあつた人達が集まつて、亥鼻キャンパスの中で発表をすることが基本的な目的です。はじめに取り掛かったことは部員の募集です。全く何もない状態からのスタートだったので、同じような趣味を持つている人たちに声をかけました。やつている楽器もやりたい音楽も様々でしたが、ジャズをやりたいという気持ちを持った人たちが集まつたと思います。その後、集まつた者同士でバンドを組み、2017年11月5日の

亥鼻祭に出演しました。映画「ラ・ラ・ランド」のテーマ曲から、A Tribe Called Questの「Electric Relaxation」まで幅広い音楽を演奏しました。このように、一口にジャズと言ってもいわゆるモダンジャズだけではなく、ヒップホップのようなものまでを含む「広義のジャズ」ができることも、本サークルの強みだと思つています。

今年で二年目を迎える亥鼻ジャズ研究会はさらなる活動の発展が望まれます。去年は総会の開催、亥鼻祭での発表、アーティスト鑑賞を行つてきましたが、今年はその活動に加えて月に1回のジャムセッションを行います。ジャムセッションとは、予め演奏する曲を決めておいて、基本的なルールの中で自由に即興演奏をするというものです。初めのうちは中々上手にできませんが、何度もやるうちに上手くなっていきます。好きな音楽や演奏技術に違いはありますが、セッションを通じてお互いの理解を深め、音楽の追求を続けていこうという狙いがあります。

また、年に2回ほど総会を開き、部員間の連帯を深め、より気軽に参加しやす

いサークルとなるようにします。2018年11月4日の亥鼻祭では、例年通り亥鼻ジャズ研究会として演奏を披露し、他のサークルと協力してライブも行いたいと考えております。

設立されたばかりのサークルではありますが、50年後も残るような継続した活動をしていきたいので、今後も亥鼻ジャズ研究会をよろしくお願ひします。

代表 木戸 雄介
会計 平尾 洋和

軟式テニス部

医学部4年 越 智 敦 彦

練習は正規練習が月・木・土の週三回でそれ以外の日は自主練習になつていきます。正規練習では、幹部が決めたメニューに沿つて全体練をしており、自主練では各自がしたい練習をしたり試合をしたりして日々精進しております。私たちの部活は代々メリハリよく活動するというのをモットーに掲げており、練習するときははる・勉強するときは勉強する・遊ぶときは遊ぶといった風にオン・オフをしっかりと切り替えて部活に臨むことを励行しています。そういった姿勢を幹部学年の部員が模範となつて示すことで、人数は多いですがダラダラとした練習や部活を優先することを強要なつたりするのを防いでい



2018年6月 春季関東医科歯科個人戦にて

ます。

大会は春季・秋季関東医科歯科リーグ戦(5月・11月)や関東医科歯科個人大会(6月)、新人戦(10月)、東日本医科歯科学生総合体育大会(8月)などに参加しています。リーグ戦は大学同士の戦いになるので、団体戦にでるのは実力

順でレギュラーメンバーが出ますが個人戦は全員が出られるので、普段の練習を發揮する場が全員にあるというのが私たちの部活の一つのいいところです。また経験者だけでなく、初心者としてはじめた部員でも一生懸命練習する人が多いので努力で団体戦のメンバーを勝ち取る人もいます。努力して団体戦にでて大学を背負って他大と戦って勝つという経験は、何事にも代えがたい経験であり部員と肩を叩きあつて勝利を共有するというのはまさに学生の間でしか味わえないような貴重なものだと思います。

バドミントン部

医学部4年 高橋 大輝

千葉大学亥鼻バドミントン部は、長い歴史を持つ伝統ある部活です。現在は医学部、看護学部、さらに六年前から加わった薬学部を合わせて総勢約100人で日々練習に励んでいます。大学から始めた部員が半数以上おり、それぞれがどうすれば試合で勝てるかを考え、技術の向上を目指し、種々の大会で良い結果を収めるために、部員一丸となっております。

練習に臨み日々精進しています。普段の練習では、試合に必要な基礎力の養成のためにフットワークや筋トレ、素振り、ノック練習をメインに行なっています。練習日は火曜日、水曜日、土曜日です。水曜日は体育館を卓球部と共有しているため、外部体育館を借り、二手に分かれて練習を行なっています。



平成30年北関東リーグ

最期になりますが、私たちが軟式テニス部の活動はOB・OGの方々に支えられて成り立っており、この場をお借りしてお礼申し上げます。今後もそういった温かいご支援をいただいているという意識を忘れずに、より一層千葉大学医看軟式テニス部を盛り上げていくよう尽力致します。今後ともご指導、ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

役員

- 男子部主将 越智 敦彦
- 女子部主将 佐藤 奈緒
- 内務 花山 聡紀
- 会計 小原 哲也

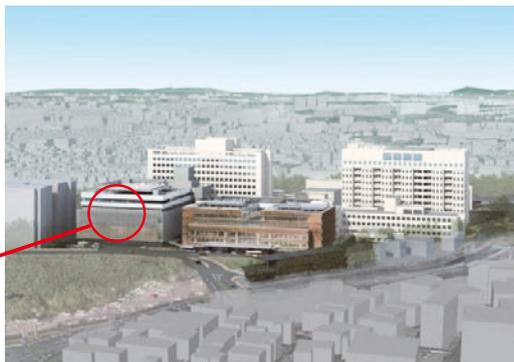
東リーグ(6月)、春季女子医科歯科リーグ(5月)、春季男子医科歯科リーグ(6月)、東日本医科学生総合体育大会(8月)、秋季女子関東リーグ(10月)、秋季男子関東リーグ(10月)、関東医科歯科リーグ新人戦(10月)、関東コメディカルリーグ(11月)などに参加しています。大会には個人戦と団体戦があり、団体戦は試合前に部内戦を行い、勝利した上位の部員が出場しますが、個人戦は全員が出場できます。そのためレギュラーだけでなくすべての部員が活躍できるのがバドミントン部の特徴です。また上記のように、部員の半数以上が初心者であることと、初心者でも取り組みやすいスポーツであるため、団体戦に出場したり、個人戦で良い結果を残すなど、初心者でも種々の大会で活躍しています。この他には、毎年7月に東日本医科学生総合体育大会に向けて関東の医学部のある大学と交流戦を、2月には日本医科大学、慶應義塾大学、横浜市立大学などと交流戦を行っております。こうした交流戦や種々の大会を通して、大学間での親睦を深めたりもしています。

最後にありますが、私たちバドミントン部の様々な活動はOB、OGの皆様に支えられて成り立っております。この場をお借りして感謝申し上げます。今後もその感謝の気持ちを忘れずに、部員一丸となって練習、大会に臨み、亥鼻バドミントン部を活気づけていきたいと思っております。引き続きご支援ご協力の程、よろしくお願い致します。

役員

- 男子主将 高橋 大輝
- 女子主将 大山 真由
- 会計 塚本 悠太
- 主務 小松 洋介

千葉大学病院 中央診療棟



完成予定：平成32年9月
開院予定：平成33年1月

同窓会員著書の紹介

野尻 雅美 (昭36) 著

QOL座標理論とその展開

—あの世も楽しく美しく

マリヨ企画出版 定価1400円 (税別)



私は看護学部で1979年から2004年まで23年間、保健学を主宰し、健康論を生涯のテーマとしてきました。私の健康論は1946年のWHOに準じますが、それが1998年に改正され、スピリチュアルが加わったことから、当初の一次的理解から二次元的理解へと転向、さらにオタワ憲章に準じ、健康をQOLと言いつ換えました。その結果、健康論はQOL論へと大変換したのです。これにより難解なQOLは視覚化され、QOL論はいつそう幅広い分野で活用されるようになりました。この研究経過は「あのはな会報」164号と171号に掲載さ

れています。これを受け、今回の第3作からは、QOL座標論を「QOL座標理論」としました。抽象的なQOLの概念は、QOL座標上で視覚化されたので、QOLプロモーション、ケアの概念、QOL衰退過程、ベナーの看護論人間研究などの複雑な課題も、容易に理解されるようになりました。さらに今回は新しい概念である老年的超越と両界曼荼羅のあの世観を、この「QOL座標理論」に乗せて図に描き、考察しました。この結果から「あの世」のおぼろげな地図が描けたので、一人での旅立ちの不安が少なくなり、死の苦痛は和らぐのではないかと、思うようになりました。「あの世も楽しく美しく」です。一医学徒の、一無宗教者の、一考察です。なお、本書はAmazonから

は入手できません。興味のある方は残部が若干あります。

吉原 俊雄 (昭53) 監修
日本唾液腺学会編
徹底レクチャー

唾液・唾液腺

金原出版 定価5000円 (税別)



本書は唾液のもつ生理作用、化学成分、唾液腺中細菌類、唾液から得られるストレスマーカーを始めとする様々なマーカー、唾液から知りうる遺伝子情報などを網羅し、唾液腺の組織学・発生、多彩な唾液腺疾患の臨床、最新の唾液腺腫瘍の病理診断学について詳細に記されたものです。日本唾液腺学会創立60周年記念書籍として発刊されました。本学会に所属する医学、薬学、薬理学、病理学、生理学など様々なフィールドの先生方に分担頂いております。過去、本邦には唾液・唾液腺を中心に編集されたものは少なく、極めてユニークな内容の冊子となっております。日本唾液腺

すので、あのはな同窓会事務局へ連絡してください。

学会の歴史は古く、その名称も少しずつ変革して今日に至っています。歴史を紐解くと本学会と千葉大学医学部とは深いきずがあり、改めて本書を紹介する所以です。会の成り立ちを述べますと、昭和19年に東大薬学部生理化学教室(当時医学部薬学科臓器薬品化学教室)の緒方章(緒方知三郎先生の弟)、伊藤四十二先生が「ホルモン物質」(パロチン)の抽出に成功したことに始まり、昭和31年、唾液腺ホルモン研究会が発足されました。緒方知三郎先生を会長とし、副会長は緒方章、幹事は伊藤四十二と滝沢延次郎(千葉医大病理・東京帝大・昭2)先生が役員で集会の名称は「唾液腺ホルモンシンポジウム」でした。その後「唾液腺研究会」と改め、会長(現在は理事長職)は昭和34、35年緒方知三郎、昭和44、46

年が滝沢延次郎、昭和50、56年が井出源四郎(千葉大医学部病理・昭19)先生へと引き継がれました。この頃は耳鼻咽喉科の北村武(昭13)、金子敏郎(昭28)両先生が学術集会の active memberとして参加されていきました。ちなみに小生は当時千葉大学大学院生として本学会に入会し、現在まで発表、会運営に携わってきました。学会事務所は一時、千葉大学病理学教室内にも置かれていました。会誌の編集は、千葉大医学部病理の滝沢延次郎先生から、井出源四郎、長尾孝一(昭36)先生が順に担当していました。

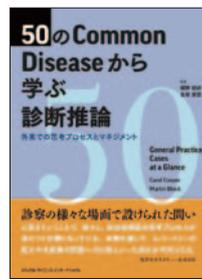
昭和58年に「日本唾液腺学会」に学会名変更し、平成25年12月、29年12月まで吉原が理事長を務め、平成30年より参与として参画しています。本書は200頁から「第IV章唾液腺疾患の臨床」は吉原が、「第V章I. 病理診断の役割」は東京医科大学教授の長尾俊孝先生(長尾孝一先生子息、弘前大・平3)が唾液腺腫瘍の2017年WHO分類について解説しています。是非関連する分野の先生方が一読されることを期待して、このたびあのはな同窓会報に紹介することといたしました。

鋪野 紀好 (平20)、
生坂 政臣 (鳥取大・昭60) 監訳

50の common disease から学ぶ診断推論

メディカル・サイエンス・インターナショナル
定価3200円 (税別)

推薦 中村 真人 (昭54)



今日から外来診療をスキルアップさせる、ドクターGの思考プロセスを学ぶ。現代の妙手回春である総合診療科の生坂教授とその弟子である鋪野特任助教が、千葉大学総合診療科教室員一同の協力を得てドクターGの思考プロセスを学ぶ本を上梓された。本の名前は、「50の common disease から学ぶ診断推論」である。原著である「General Practice Cases at a Glance」は、英国のプライマリ・ケアが舞台となり、外来診療に必須の座右の書だ。本の中から、患者さんの声が聞こえてくる。「先生、お腹が痛い。」「先生、足が痛

くない。」「先生、私はどうしたら良いでしょう」そういった生の声が、本を開けるといきなり聞こえてくる。そういう意味で、この本の中には生の外来診療が存在している。その外来診療を、総合診療医としての思考プロセスで診療する方法が易しく書かれている。まず、初めに、焦点を絞った病歴聴取と臨床推論が重要であることを教えられる。そして、ソクラテスを用いた病歴聴取や、オープンクエスチョンとクローズドクエスチョン、臨床推論の方法について簡潔に学んだ上で、力試しの50ケースが提示されている。著者らが言うように、実際の診療は、疾患ベースでは無い。そこでこの50ケースはまさに診察室で患者さんと話す患者ベースで書かれている。この50ケース、目の前の患者さんからの質問に答え

会費納入のお願い

平成30年度のるのほな同窓会費 (5,000円) の納入をお願い致します。

同封の振込用紙をご利用の場合、手数料は無料です。

なお、便利な銀行口座振替もごさいます。(お申し込みは同窓会事務局にご連絡ください。)

*他金融機関からゆうちょ銀行への振込先
〇一九 (ゼロイチキユウ) 店 (019)
当座0143947

る形なので、自分の気になったケースについてどこから読んでも良い。
「赤ちゃんが高熱です」「疲れています」「記憶力に不安があります」「癌が悪くなっているに違いなし」「体重が減ったみたいですが」などなど、日常診療で良く遭遇すると思われるケースについて、この患者のニーズは？病歴では何を確認する？何を聞くべきか？確認すべき身体観察は？診断と鑑別診断は？マネジメントの原則は？フォローの仕方は？など、診療方法を懇切丁寧にかつ漏れなく教えてくれる。

通常の教科書は、疾患別に目次が並んでいる。例えば、胸痛にしても、循環器疾患？呼吸器疾患？消化器疾患？などと、色々考えて調べるのは非常に手間がかかる。しかも症状の原因となる疾患について、全て考えるのは大変だ。ところがこの本を読めば、患者さんからの訴えを総合的に漏れなく診ることが出来るのだ。さあ、あなたも明日のドクターGを目指すならばぜひこの本を読むことをお勧めする。日常診療がブラッシュアップされ、名医になれることを約束する。

お詫びと訂正
178号
16面
眼科学教室同窓会
2016年第53号
←
2017年第54号
お詫びして訂正させていただきます。

ご住所・ご勤務先等に変更がございましたらるのほな同窓会にご一報ください。

電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : info@inohana.jp



千葉大学呼吸器内科
同門会誌
2017年第14号

栃木県るのほな会 平成30年 第15号

とちぎ るのほな
平成30年 第15号

栃木県るのほな会
千葉大学医学部るのほな同窓会栃木県支部

とちぎ るのほな 第15号

***** 目次 *****

- 巻頭言 崎尾 秀彰(副44号) 1
- 新会長挨拶
次期会長を拝命して 十川 康弘(副55号) 5
- 公 報
平成29年度 栃木県るのほな会 総会プログラム 7
平成29年 会計報告 小池 正造(副53号) 8
監査報告 齋藤 弘司(副43号) 8
総会写真 9
- 特別講演1
腎血管性腎臓病の診断と治療 田邊 朝宏 15
- 特別講演2
日光東照宮-400年式年大祭から新たななる出発 福室 久雄 17
- 関連病院より
栃木県立がんセンター 行澤 善哲(平9号) 19
済生会宇都宮病院 戸邊 肇(平1号) 20
上野原総合病院の近況 十川 康弘(副55号) 21
とちぎメディカルセンター(TMC)しもつが 村野 俊一(副50号) 23
自治医科大学 森本 直樹(平3号) 25
とちぎメディカルセンターとちぎ 早乙女 直(副48号) 27
腎臓病科大学病院の近況 石塚 眞(平3号) 28
- 追記
薬師 光先生を偲ぶ 飯田 早苗(副34号) 31
坂 芳賀七郎先生を偲んで 木内 征三(副48号) 31
西川敬介君を偲ぶ 大井 裕夫(副35号) 32
永井久盛先生を偲ぶ 廣田 勝太郎(副55号) 33
- エッセイ
私の読書こと始め 園田 啓一(副52号) 34
- 表紙写真・風景撮影 36
- 会員名簿 37
- 栃木県るのほな会 会報 40

原簿：元栃木県医師会 会報 片山 一郎

日本製薬株式会社
NIHON PHARMACEUTICAL CO.,LTD

平成30年度 第1回理事会議事要旨抜粋

日時：平成30年4月19日
（木）18時より

場所：ステーションコン
ファレンス東京

出席者：

- 濟陽高穂（会長）
- 鈴木信夫（副会長）
- 吉川広和（副会長）
- 吉原俊雄（副会長）
- 岩倉弘毅（会計監事）
- 大井利夫（参与）
- 税所宏光（参与）
- 青木 謹 石川詔雄
- 伊藤達雄 岡本和久
- 小野田昌一 黒木春郎
- 崎尾秀彰 白澤 浩
- 諏訪敏一 諏訪園靖
- 田邊政裕 角田隆文
- 十川康弘 忍頂寺紀彰
- 幡野雅彦 花輪孝雄
- 三科孝夫 横須賀忠
- 鈴木 守（群馬代理）
- 高橋宏和（千葉代理）

（敬称略）

議題

1. 報告事項

(1) 広報編集関係

白澤浩理事より、なのはな同窓会報178号は編集委員
会が4月10日に開催され平

成30年5月10日発行予定で
あることが報告された。

2. 協議事項

(1) 名譽会員の推薦について

白澤理事より資料に基づ
き説明があり、名譽会員推
薦に関する内規に則り、千
葉県なのはな会より2名
東京なのはな会より1名を
候補者として総会に諮るこ
とが了承された。

(2) 平成30年度役員について

白澤理事より、資料に基
づき、栃木なのはな会より
会長崎尾秀彰氏が退任さ
れ、後任には十川康弘理
事、新理事として星野聡氏
（昭43）を推薦する旨、説
明があり了承され、総会に
諮る事とした。

(3) 平成29年度決算

評議員1名（平成30年
卒）が加わり、その他は前
年度と同様である旨、説明
され了承された。

(4) 決算報告

幡野雅彦理事より、資料
に基づき、収入は、会費収
入が予算額より少ないが、
雑収入で名簿作製のため広
告収入があり、支出は、総
務費のうち理事会費で同窓
会活性化による理事数増加
のため、事業費のうち、ち
ばBCCR支援としてメダ

ル贈呈のため、同窓サポー
トプロジェクトで卒後50周
年に加え60周年にも記念メ
ダル贈呈のため、それぞれ
予算額を超えた事が説明さ
れ、承認された。

(2) 会計監査

岩倉弘毅会計監事より、
平成29年度の監査結果につ
いて会計処理が適正である
旨、資料に基づき、報告さ
れた。

(4) 平成30年度事業計画

白澤理事より、資料に基
づき、ほぼ例年通りである
が、なのはな同窓会館関連
施設設立計画をメモリアル
事業（仮称）と名称を変え
て継続すること、会員名簿
発行は3年に1度作製した
め本年度の計画から外した
ことが説明され、了承され
た。

(5) 平成30年度予算案

幡野理事より、資料に基
づき、収入については、ほ
ぼ例年どおりであるが入会
金を増額、事業収入を増
額、支出については、理事
会費を増額、ちばBCCR
支援のメダル作製代を増
額、同窓サポートプロジェ
クトは卒後60周年の記念メ
ダルと感謝状作製代分を増
額した事などが説明され、
承認された。

(6) なのはな同窓会賞選考結果

白澤理事より、資料に基

づき、功労賞の候補者1名
について説明があり、推挙
された候補者について選考
委員会にて検討した結果、
功労賞に寺澤捷年氏（昭
42）が候補者として推薦さ
れた旨の報告があり、承認
された。

(7) 総会議題等について

吉原俊雄副会長より、資
料に基づき、総会は平成30
年6月9日（土）15時半か
ら銀座アスター御茶の水賓
館にて開催し、会費1万円
（卒後10年未満は無料）、講
演は若手スピーチを三澤園
子氏、特別講演を安西尚彦
氏、堺常雄氏に依頼、同窓
会功労賞受賞者に挨拶をい
ただく事とし、懇親会も同
会場にて開催する等の説明
があった。

(8) メモリアル事業（仮称）

吉原副会長より、資料に
基づき、I. なのはな同窓
会館に併設、新設。II. 新
研究棟の入口ホール等にパ
ネル設置。III. 記念講堂の
利用。IV. 医学部本館を残
す可能性。以上の事を考慮
しながら今後も検討する事
が説明された。

メモリアル事業委員会の

設置が了承され、事業委員
会の立ち上げは、総務会に
検討を一任し、理事会に諮
ることとした。

(9) 争訟事案（なのはな同窓
会館）について

白澤理事より、資料に基
づき、なのはな同窓会館建
設費用に關しての訴訟事案
の調停が成立した事などが
説明された。弁護士費用を
大学が支払い、なのはな同
窓会館の建物価値を上げた
3か所の追加変更工事費用
と調整金を同窓会が負担す

平成30年度 なのはな同窓会総会議事要旨

日時：平成30年6月9日
（土）15時30分よ

場所：銀座アスター御茶
ノ水賓館

出席者：79名

委任状：615名

吉原俊雄副会長の司会に
より開会となり、まず物故
者92名に黙祷を捧げた。濟
陽高穂会長の挨拶の後、同
会長が議長に選出され議事
が進められた。

議事

(1) 名譽会員の推薦について

白澤浩理事より、内規に
基づき推挙された3名の名
譽会員の推薦について説明
があり、承認された。（3
面に掲載）

る事が承認された。

(10) なのはな同窓会誌発行企画

鈴木信夫副会長より、同
窓会報の他に同窓会誌の作
製をメモリアル事業の中で
進められる事、若い会員あ
るいは地域なのはな会によ
る同窓会主体の会誌発行の
提案などがある事が望まし
いとの意見が述べられた。

(2) 年次活動について（報告
事項）

① 庶務部報告

白澤理事より、平成29年
度の各会議開催や各支部と
の交流等について報告され
た。

② 事業部報告

同理事より、同窓会賞の
授与、同窓会報の発行、同
窓サポートプロジェクト
等について報告され、なのは
な同窓会館関連施設設立
についてはメモリアル事業
として検討が進められてい
ることが説明された。

(3) 平成29年度決算について

① 決算報告
幡野雅彦理事より、収入
については、会費収入等は
ほぼ予算どおりであるが、
雑収入が名簿作成広告費に
より増額となったこと、支

(4) 平成30年度事業計画につ

いて
白澤理事より、会報発
行、各地域なのはな会への
支援、各地域なのはな会
（会員）・本部間の交流、研
究・教育助成、IT広報関
連事業、メモリアル事業
（仮称）、同窓会組織の充
実、同窓サポート・プロ
ジェクトなどの事業計画に
ついて説明があり、承認さ
れた。

(5) 平成30年度予算案につ

いては、ほぼ前年と同じで

出については、ほぼ例年通
りの執行であるが、理事会
費で同窓会活性化のため各
支部の理事を増やしたこと
による増、ちばBCCR
（学生の基礎・臨床の研究
発表）支援ではメダルの作
成費の増、同窓サポートプ
ロジェクトでは卒後60年の
記念メダル作成費等で増額
となったこと、出版支援に
ついては国際教養学部の見
城悌治氏が千葉大学の留学
生の歴史に関する本を出版
し、それに対する支援をし
たとの説明があった。以上
の報告により平成29年度の
決算報告が承認された。

② 監査報告

岩倉弘毅会計監事より、
監査報告について説明があ
り、決算案が承認された。

(4) 平成30年度事業計画につ

いて
白澤理事より、会報発
行、各地域なのはな会への
支援、各地域なのはな会
（会員）・本部間の交流、研
究・教育助成、IT広報関
連事業、メモリアル事業
（仮称）、同窓会組織の充
実、同窓サポート・プロ
ジェクトなどの事業計画に
ついて説明があり、承認さ
れた。

あるが、卒後50年を迎えた会員の方々より同窓会へのサポートとして寄附申込みがあり、後続学年に継続できるような基金創設の依頼により、特別寄附金として卒後50周年基金を創設することとしたこと(15面に関連記事掲載)、この基金については昨年11月の理事会にて申合せ事項を決定しており、るのほな同窓会の発展に寄与する目的に用い、管理・運用は理事会の定める会計規則により財産管理を行うものとしたこと、支出については、ほぼ前年と同じであるが、同窓会活性化のための理事会費、「ちばBCRC」支援、同窓サポート・プロジェクトは卒後60周年記念のためそれぞれ増額としたことなどが説明された。

総会出席の会員より、会費収入については前年度の決算額を上回る予算計上は原則としてしない方がよいこと、同窓会館の大規模修繕等に係る費用について、建物は大学に寄贈したため基本的には同窓会の負担ではないことの確認、人件費については前年の決算額を参考に予算を計上するべきなどの意見が述べられた。幡野理事より、会費徴収については、学年別納入率を参考にし、銀行口座振替を進めるなど納入率を上げるように努める事が説明され、平成30年度予算が承認された。

(6) 役員の選出について
白澤理事より、説明があり、各地区のるのほな会より新たに選出された理事、星野聡氏、栗原正利氏、井上賢治氏3名が承認された。評議員は、新たに岩田秀平氏(平30)が承認され、平成30年度の会務分担案が承認された。

理事会を併催して
吉原副会長より、メモリアル事業の発足について説明された。医学部の140年あまりの年表を展示したメモリアルウォールの建設、あるいは新研究棟のホールにパネル設置、医学部本館研究等の移転に伴う貴重な資料・記録・物品の保存などを実現するために経費が必要となる。そこで、メモリアル事業としての活動を認め、寄附などに関わる実行委員会としての発足が提案され、承認された。メモリアル事業については事業部活性化委員会、活性化WGで検討を進めることとした。

以上をもって、閉会となった。

るのほな同窓会賞伝達式
白澤理事の司会により、功労賞受賞者 寺澤捷年氏の略歴、受賞歴等が紹介され、表彰式が行われた。済陽会長より表彰盾と副賞が授与された。

るのほな同窓会受賞者挨拶
功労賞受賞者寺澤捷年氏が挨拶された。

若手スピーチ
座長岡本和久理事の紹介により、三澤園子氏による「成長戦略として考える女性医師の育成」と題して若手スピーチが行われた。(2面に掲載)

特別講演
座長栗原正利理事の紹介により、安西尚彦氏が「腎臓トランスポーターと高尿酸血症」と題して、座長吉原副会長の紹介により、堺常雄氏が「日本の医療はどこへ向かうのか」と題してそれぞれ特別講演が行われた。(2・3面に掲載)

懇親会
吉村健佑氏の司会により開会された。済陽会長の挨拶に続き、青木謹理事により乾杯のご発声、新名誉会員、地区のるのほな会長等からご挨拶を頂いた。歓談の時間を過ごし閉会となった。

平成30年度予算

平成29年度決算報告

収入の部	款 項 目	予算額 (円)
	会 費 等	20,050,000
	事業収入(註1)	6,500,000
	他会計より受入	20,000
	寄 付 金	700,000
	基金より取崩し(註2)	3,000,000
	雑 収 入	20,000
	(当期収入計)	30,290,000
	前年度繰越金受入	10,357,426
	収入合計	40,647,426

収入の部	款 項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	対予算額 (円)
	会 費 等	20,000,000	18,587,000	-1,413,000
	事業収入(註1)	6,000,000	6,640,697	640,697
	他会計より受入	20,000	4,401	-15,599
	寄 付 金	700,000	570,000	-130,000
	基金より取崩し(註2)	3,000,000	282,960	-2,717,040
	雑 収 入	20,000	1,169,045	1,149,045
	前年度繰越金受入	8,225,322	8,225,322	
	収入合計	37,965,322	35,479,425	-2,485,897

支出の部	款 項 目 (節)	予算額 (円)
	総 務 費 (註3)	13,100,000
	事業費(註4)	19,560,000
	事業税等	1,400,000
	予 備 費	6,487,426
	積 立 金	100,000
	次期繰越金	
	支出合計	40,647,426

支出の部	款 項 目 (節)	予算額 (円)	決算額 (円)	対予算額 (円)
	総 務 費 (註3)	12,900,000	8,717,163	-4,182,837
	事業費(註4)	19,230,000	13,986,536	-5,243,464
	事業税等	1,400,000	1,318,300	-81,700
	予 備 費	3,335,322	0	-3,335,322
	積 立 金	1,100,000	1,100,000	0
	次期繰越金		10,357,426	10,357,426
	支出合計	37,965,322	35,479,425	-2,485,897

註1～4：収入、支出の主要細目等

	款 項 目		30年度予算	29年度予算
収入の部	(註1) 事業収入	会員総合補償制度集金事務費	6,500,000	6,000,000
	(註2) 基金より取り崩し	同窓会基金より同窓会館関連施設建設準備金に充当	3,000,000	3,000,000
支出の部	(註3) 総務費	会議費	3,500,000	3,300,000
		人件費	7,000,000	7,000,000
		その他	2,600,000	2,600,000
	(註4) 事業費	会報・会誌	5,350,000	5,350,000
		学事奨励	550,000	550,000
		・るのほな賞		
		・るのほな美術展	200,000	200,000
		・猪之鼻奨学会	400,000	400,000
		各種助成	800,000	800,000
		・附属図書館	700,000	700,000
		・白衣式		
		・国際交流支援	100,000	100,000
		・ちばBCRC支援	240,000	160,000
		・留学生	100,000	100,000
		・白菊会	200,000	200,000
		・支部	4,100,000	4,100,000
	・同窓サポートプロジェクト	1,950,000	1,400,000	
	・出版支援		300,000	
	・IT関連事業費	1,200,000	1,200,000	
	同窓会館建設費等	3,000,000	3,000,000	
	その他	670,000	670,000	

平成30年度 千葉大学医師会 日本医師会認定産業医研修会 「基礎実地」・「生涯実地」開催のご案内

標記研修会を下記の通り開催いたしますので、ご参加くださいますようご案内申し上げます。
本研修会は、日本医師会認定産業医制度における、認定産業医になるための研修及び更新を希望する医師の研修です。

1. 主催：千葉大学医師会
2. 日時：平成30年11月7日（水）18時～20時
3. 場所：千葉大学医学部ゐのはな同窓会館 ホール
住所：千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学亥鼻キャンパス内
※ご来場の際は公共の交通機関をご利用願います
4. 定員：50名
5. 受講料：無料
6. 申込方法：受講希望者は
 - ①氏名（フリガナ）
 - ②所属医療機関名
 - ③産業医手帳の有無
 - ④医籍登録番号
 - ⑤連絡先のご住所・所在地（ご自宅・勤務先）
 - ⑥上記のTEL、FAX又はe-mail

研修会場：ゐのはな同窓会館



以上を明記の上、メールまたはFAXにて下記宛に 10月24日（水）までにお申込みください。

千葉大学医師会 事務局
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部内
Fax：043-202-3757 e-mail：ishikai@c-med.org

- ※定員になり次第締め切ります。
- ※受講票は発行いたしません。申込み受付後、⑥の連絡先（FAX又はe-mail）宛に確認のご連絡をいたします。
- ※受講シールは当日研修会終了後に手交いたします。

7. 研修内容：基礎・実地 2単位、生涯・実地 2単位（申請中）

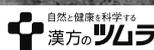
「作業環境管理、騒音及び温熱環境について」

千葉大学大学院医学研究院	環境労働衛生学	教授	諏訪園 靖
千葉大学大学院医学研究院	環境労働衛生学	講師	能川 和浩
千葉大学大学院医学研究院	環境労働衛生学	助教	渡邊 由美香

※生涯教育講座のカリキュラムコード：7. 医療の質と安全 1単位、11. 予防と保健 1単位が取得可能

問合せ：千葉大学医師会 事務局
TEL：043-202-3755
FAX：043-202-3757
e-mail：ishikai@c-med.org

漢方医学と西洋医学の融合により、世界で類のない最高の医療提供に貢献します



<http://www.tsumura.co.jp/>

●お問い合わせは、お客様相談窓口まで。【医療関係者の皆様】Tel.0120-329-970 【患者様・一般のお客様】Tel.0120-329-930

(2018年5月制作) QSCA28-K

オンライン会報案内

<http://www.inohana.jp/online/index.html>



動画配信を主体とするオンライン会報では、各地で開催されるるのほな会総会の模様を掲載しております。オンライン会報トップページ画面総合目次に記載されている同窓会の文字をクリックしていただくと、これまで掲載されている各番組をご覧いただけます。平成21年度開催以来の総会風景で、掲載のご依頼がありましたものについてご覧になれるようにしてあります。本紹介頁では、最近掲載された各地の総会番組を掲示いたします。

オンライン会報 総合目次

*本ページの動画はmp4形式です。ご覧になれない場合は、mp4対応のプレーヤーをインストールしてください。
*古い動画コンテンツの中には僅かですが専用の再生ソフトが必要なものがあります。

- 病院紹介
- 求人・求職
- 同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介
- 生涯学習講座
- インタビュー
- 国際交流
- 都道府県医師対策
- オンライン書庫
- 同窓会
- クラス会・他大学等
- キャンパス便り
- 福祉関連情報
- 「ほっとひといき」ちば通信（千葉日報）
- 協賛企業からのお知らせ



オンライン会報 総合索引

- 氏名
- 病院・医院・診療所

同窓会



多摩るのほな会
平成27年度総会
平成27年10月24日（土）
於 国分寺駅ビル サロン飛鳥
[2015. 12. 24 掲載]



栃木県るのほな会
平成27年度総会
平成27年1月25日（日）
午後3時～
ホテルニューイタヤ
[2015. 5. 20 掲載]



多摩るのほな会
るのほな同窓会の
バックアップに期待
(写真左より)
野本 正嗣（野本医院 院長）
上田源次郎（青梅今井病院 院長）
杉田 克生（千葉大学大学院人文社
会科学研究科 教授）
[2014. 11. 14 掲載]



栃木県るのほな会
平成26年度総会
平成26年1月26日（日）
午後3時～
於 ホテルニューイタヤ
[2014. 3. 31 掲載]



千葉県るのほな会
平成25年度総会
平成25年6月29日（土）
午後3時30分～
於 三井ガーデンホテル千葉
[2013. 8. 7 掲載]



栃木県るのほな会
平成25年度総会
平成25年1月27日（日）
午後3時～
於 ホテルニューイタヤ
[2013. 3. 12 掲載]



ろのはな同窓会埼玉県支部
平成24年度総会
平成24年8月26日（日）
午後3時～
於 パレスホテル大宮
[2012. 10. 22 掲載]



信州ろのはな会
平成24年度総会・懇親会
平成24年6月23日（土）
・総会 午後3時～
▶映像を見る
・懇親会 午後6時30分～
▶映像を見る
於 ホテルナガノアベニュー
[2012. 9. 27 掲載]



中京ろのはな会の紹介と
会員の方々との懇談会
[2012. 1. 10 掲載]



平成23年度ろのはな同窓会
埼玉県支部総会
平成23年8月28日（日）
午後3時～
於 パレスホテル大宮
銀杏の間
[2011. 11. 22 掲載]



沖縄ろのはな同窓会
[2011. 4. 27 掲載]



栃木県ろのはな会
平成23年度総会
平成23年1月16日（日）
午後3時～
於 ホテル・ニューイタヤ
[2011. 3. 18 掲載]



千葉県ろのはな会
平成22年度総会
平成22年6月26日（土）
午後3時～4時
於 千葉ステーションビル
ペリエホール
[2010. 9. 6 掲載]



東京ろのはな会
平成22年度総会
平成22年6月5日（土）
総会・講演会：午後4時30分～
於 銀座アスターお茶の水賓館
新お茶の水ビル21階
[2010. 8. 6 掲載]



江戸川ろのはな会
平成22年度総会
平成22年5月15日（土）
総会・講演会：午後6時～
懇親会：午後8時～
於 ロイヤルパークホテル
4F琥珀の間
[2010. 7. 27 掲載]



習志野ろのはな会
平成21年度総会
平成21年11月12日（木）
総会・懇親会：午後7時～
於 習志野第一病院／
キャラバンサライ
[2010. 2. 2 掲載]



信州ろのはな会
平成21年度総会
平成21年5月30日（土）
総会：午後3時45分～6時
懇親会：午後6時30分～8時30分
於 ホテル・メトロポリタン長野
戸隠の間
[2009. 7. 3 掲載]



群馬ろのはな会
平成21年度総会
平成21年9月26日（土）
総会・懇親会：午後5時30分～
8時
於 高崎ワシントンホテル
[2009. 12. 25 掲載]

関大天鵜糸菊角江中唐田大竹一新相町川
 口濱野飼井地田畑村木中平内色田馬野辺
 和博 久善博耕精一潤 博重実豊重
 夫利茂恒雄秀夫作男守一馨通義男胤憲敏
 (昭昭昭昭昭(専慈昭專專專專(昭昭昭昭專專
 272727262625)恵25)24)24)23)23)23)22)21)19)18)

おくやみ

八田山窪中飯曹(曾)井菅小永高三富石藤
 木中田田村田田(傑)上原野井井橋好岡川田
 橋美 八勝 龍 世植 雄元 宏 順光 宣 皓 正 佳 夫
 範 健 郎 也 衛 一 植 元 宏 順 光 宣 皓 正 佳 夫
 (昭昭昭昭昭(昭昭昭昭昭(昭昭昭昭昭(昭昭昭
 51)51)50)44)43)41)40)40)39)39)34)30)29)28)27)

るのほな同窓会誌第179号をお届けします。この夏は各地で40℃を超える最高気温を記録し、千葉も連日猛暑でした。本誌がお手元に届くころには秋の気配が漂っていることと思います。去る6月9日(土)御茶ノ水で平成30年度るのほな同窓会総会が開催されました。三澤園子先生、安西尚彦先生、堺常雄先生からはそれぞれ若手スピーチ、特別講演の要旨を寄稿いただきました。私も総会に出席して各先生方の素晴らしいご講演を拝聴しました。三澤先生はご自身千葉大学医学部附属病院で女性医師として活躍されかつ家庭との両立をされておられることについて輝く女性医師を育成するかという話は非常に説得力のあるものでした。安西先生はご自身のライフワークともいえるトランスポーターと尿酸代謝について非常に明快にお話しいただきました。悪

編集後記

玉とされている尿酸にも善玉としての作用があるのではないかとという話は興味深いものでした。堺先生は日本の医療制度の歴史について述べられ、今後超高齢社会を迎えるにあたって医療提供体制をどのように改革しなくてはならないか、またその中で千葉大学医学部附属病院はどう対応しなければならぬかについてお話しいただきました。診療、経営の質の担保はもちろん、地域の中で最適化が必要とのこと、変化に対応できることが生き残れるという言葉が印象的でした。 済陽会長が総会挨拶でも述べられていますが現在亥鼻キャンパスでは野球グラウンドの一部に中央診療棟および医学系総合研究棟の建設が始まっています。医学部本館にある研究室は2年半後の平成33年3月にはすべて新研究棟に移転になります。千葉大

学医学部140年の歴史があり貴重な資料や歴史的な診療機器、実験機器などを保管している教室も多数あります。移転によりこれらの歴史的財産が散逸するのを防ぐために同窓会ではそれらを保管・展示できないかと検討しております。また医学研究院内でも医学資料保管ワーキンググループが立ち上がり検討を始めています。医学部本館は建設当時東洋一といわれた附属病院で歴史的な建造物ですが、移転後は空家になければならず、その後どのようになるのかは決まっていなくて聞いています。千葉大学医学部の歴史にとっては大きな変革の時です。千葉大学医学部が古きよきものを引き継ぎつつ新たな次元に発展するよう同窓会員の皆様の叡智を集結して進めて行ければと思っております。

幡野雅彦(昭57)

千葉医学94巻3号 2018年6月

症 例
 配電線による電撃症の1例
 岩立陽祐 堀 和樹 嘉陽宗史 神田幸洋 藤居勇貴 八幡浩信
 学 会
 第1363回千葉医学会例会・平成29年度細胞治療内科学例会
 第1364回千葉医学会例会・第17回呼吸器内科学会
 (第31回呼吸器内科同門会)

雑 報
 腫瘍内科医が分子生物学を学んでみたら
 ~ in silicoの壁~ 関根郁夫

CMJ要旨
 胸腺内T細胞分化制御機構 木村元子
 結腸術後縫合不全を予測するための術中経肛門の内視鏡を用いた
 ICG蛍光観察による吻合部血流の評価方法の検討
 武藤頼彦 宮内英聡 大平 学 早野康一
 成島一夫 鈴木一史 松原久裕
 下条直樹

編集後記
 Chiba Medical Journal
 Chiba Medical Society Award Review
 The basis of T cell development and lineage choice in the thymus
 Motoko Y. Kimura

Original Article
 Evaluation of the anastomotic blood flow with near-infrared ICG fluorescence angiography with intraoperative transanal endoscopy to predict anastomotic leakage after colorectal surgery
 Yorihiro Muto, Hideaki Miyuchi, Gaku Ohira, Koichi Hayano
 Kazuo Narushima, Kazufumi Suzuki and Hisahiro Matsubara
 Vibration risks during pediatric transport: a comparison of the ambulance and the helicopter
 Naoki Shimizu, Osamu Saito and Nao Nishimura

第94回千葉医学会学術大会

千葉医学94巻4号 2018年8月

症 例
 非肥満型体型に生じた白線ヘルニアの1例
 坂本敏哉 川本 潤 西田孝宏
 内 玲往那 森中孝至

第九回千葉医学会奨励賞
 去勢抵抗性前立腺癌においてがん抑制型マイクロRNAが制御する
 転移促進機構: LOXL2/ITGB1 経路の解明 黒住 顕
 学 会
 第1361回千葉医学会例会・第7回臨床研修報告会
 第1367回千葉医学会例会・整形外科例会
 第1372回千葉医学会例会・平成29年度第17回千葉大学大学院
 医学研究院呼吸器病態外科学教室例会

CMJ要旨
 ラット筋損傷後修復、除痛過程の圧迫療法、冷却療法による
 治療効果の差異
 稲毛一秀 折田純久 藤本和輝 山内かつ代 國府田正雄
 赤澤 努 江口 和 古矢丈雄 中村順一 鈴木 都
 佐久間詳浩 久保田 剛 及川泰宏 西能 健
 佐藤 淳 志賀康浩 阿部幸喜 金元洋人
 井上雅寛 木下英幸 乗本将輝
 海村朋孝 高橋和久
 大鳥精司
 龍岡穂積

編集後記
 Chiba Medical Journal
 Original Article
 Differences between the effect of compression and ice treatment in a rat model of muscle injury
 Kazuhide Inage, Sumihisa Orita, Kazuki Fujimoto, Kazuyo Yamauchi, Masao Koda
 Tsutomu Akazawa, Yawara Eguchi, Takeo Furuya, Junichi Nakamura
 Miyako Suzuki, Yoshihiro Sakuma, Go Kubota, Yasuhiro Oikawa
 Takeshi Sainoh, Jun Sato, Yasuhiro Shiga, Koki Abe
 Hirohito Kanamoto, Masahiro Inoue
 Hideyuki Kinoshita, Masaki Norimoto
 Tomotaka Umimura
 Kazuhisa Takahashi
 and Seiji Ohtori

第94回千葉医学会学術大会